日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌［アクエドゥクト］
www.acueducto.jp

acueducto

2017
29
31-mayo

追悼特集
スペインを生きた芸術家、堀越千秋

スタッフは全員留学経験者
入学手続きを無料で代行！ スペイン留学.jp

参加者プレゼント
スペイン留学.jp
オリジナルグッズプレゼント！

¡VAMOS A APRENDER ESPAÑOL EN ESPAÑA O LATINOAMÉRICA !

スペイン・中南米

留学セミナー

都市、学校･コース、滞在方法、費用、学生ビザ準備方法などを
詳しくご説明いたします。

いつかスペイン語圏に
留学してみたいな～
というあなたへ！
お気軽にご参加下さい♪

OSAKA	6/2（金）	19:30～			
NAGOYA	3（土）	10:30～	14:00～		
YOKOHAMA	10（土）	10:00～	13:00～	15:00～	
YOKOHAMA	11（日）	10:00～	13:00～	15:00～	
OSAKA	30（金）	19:30～			
OSAKA	7/8（土）	10:30～			
OSAKA	17（月祝）	13:30～			
OSAKA	8/5（土）	13:30～			

セミナー所要時間 約40分 ＋ 個別カウンセリング（要事前予約）

※6/10、11はセミナーのみ開催、セミナーは各回60分です。

開催場所
大　阪：大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F
名古屋：名古屋市中村区名駅2-41-17 OA第2ビル 3FルームB
横　浜：横浜市戸塚区戸塚町16-17 戸塚区総合庁舎3階 多目的スペース小

全日程、完全事前予約制です。参加ご希望の方は必ず事前にお申込下さい。

大阪本社 06-6346-5554　東京 03-6869-6435
名古屋 052-766-6406　福岡 092-517-9535
www.spainryugaku.jp　info@spainryugaku.jp
受付時間：月～土 8:30～21:30　スペイン留学.jp（有限会社 ADELANTE）

Sumario

3 追悼特集
スペインを生きた芸術家、堀越千秋

17 El álbum japonés de los reyes
国王夫妻の日本アルバム
文　Gonzalo Robledo　写真　Casa de S.M. el Rey

20 パンとチーズとワインがあれば - スペイン料理あれこれ話 vol.7
Ensaladilla Rusa　文・写真　渡辺万里

24 スペイン留学.jp
中南米の国紹介「México」

28 ADELANTEのスペイン語レッスン
初級　スペイン語で話そう　Lección 11
～はいつですか？ / ～間ですか？

30 実践　Español práctico vol. 5
サッカーのチケット

32 中級　スペイン語講座 Lección 29
様態の接続詞como等の表現について　文　仲井邦佳

34 上級　ビジネススペイン語 vol. 10
経理用語を使った表現　文　伊藤嘉太郎

36 音楽の時間
ガルシア・ロルカと音楽 その4　文　下山静香

38 日出づる国での5年―魅惑の国、日本―
文・写真　Antonio Gil de Carrasco

42 日西商業会議所
マニラ・ガレオン。3大陸を結んだスペイン航路

44 HISTORIA DE HISTORIAS
スペイン内戦が生んだ「ロバート・キャパ」第15話　文　川成洋

46 西宮市国際交流協会 スペイン語おしゃべりの会 活動報告　文・写真　谷善三
スペイン小橋　第10回　文・写真　土屋寛子

47 スペインのお勧めバール・レストラン vol. 15　文・写真　中村美和

Estimados Señores
―読者の声―

acueducto 編集部では、皆さまからのメール・お便りを募集しています。スペイン情報誌 acueducto へのご意見・ご感想のほか、スペインにまつわるエピソードもお寄せ下さい。

1. お名前（ペンネーム）※匿名希望の場合は、その旨を明記下さい
2. お住まい
3. ご連絡先
4. メッセージ

写真入りのお便り・メールも大歓迎です

宛先：
有限会社 ADELANTE
〒530-0001　大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2F
info@acueducto.jp

・お寄せいただいたメッセージは、これからの誌面制作の参考にさせていただきます。また、acueducto 誌面や弊社ホームページ、宣伝物に掲載させていただく場合がありますので、掲載を希望されない場合は、「非公開希望」と明記下さい。なお掲載にあたっては、文章の一部削除・変更させていただく場合がありますのでご了承下さい。
・いただいた個人情報は上記以外の目的では使用致しません。
・お便り・メールへの個別のお返事は差し上げておりません。
・お送りいただきましたお便り・写真は返却致しません。あらかじめご了承下さい。

2004 年フジロックフェスティバル。堀越千秋（写真左から 2 人目）、ヒターノ・デ・ブロンセ（3 人目）、ホアン・カンポ（4 人目）、ディエゴ・アグヘタ（6 人目）ら。©Daisuke Misu

acueducto 29

スペイン無料情報誌
mayo 2017 vol.29
printed in Japan / FREE PAPER
表紙写真：横浜 JAZZ PROMENADE 2014
©Hidetoshi Kumagai

発行元：
有限会社 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2 F
Tel：06-6346-5554　Fax：06-6110-5122
info@acueducto.jp
www.acueducto.jp

ADELANTE Co., Ltd
2FL. Chiyoda Bldg. West Annex 2-5-8 Umeda Kita-ku Osaka
530-0001 Japón

www.facebook.com/acueducto.japon
@acueducto_japon
Asociación Cultural Española スペイン文化協会

本誌の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。本誌の内容および広告に関しては、発行元の責任の限りではありません。

Director：編集長
Shoji Bando / 坂東省次

Editor：発行
Alejandro Contreras / コントレラス・アレハンドロ

Coordinación：編集
Nagisa Miyata / 宮田渚

Diseño：デザイン
Koichi Hayashi / 林コイチ

Colaboradores en este número：今号の執筆・校正協力
Kaname Ikemoto / 池本かなめ
Yoshitaro Ito / 伊藤嘉太郎
Aki Ihara / 井原亜紀
Katsuyuki Ogiuchi / 荻内勝之
Hitomi Kazuki / 香月人美
Yo Kawanari / 川成洋
Elena Contreras / コントレラス・エレナ
Shizuka Shimoyama / 下山静香
Zenzo Tani / 谷善三
Hiroko Tsuchiya / 土屋寛子
Kuniyoshi Nakai / 仲井邦佳
Miwa Nakamura / 中村美和
Yasuko Hirayama / 平山靖子
Renzo Hirayama / 平山廉三
Antonio Gil de Carrasco / ヒル・デ＝カラスコ・アントニオ
Gonzalo Robledo / ロブレド・ゴンサロ
Mari Watanabe / 渡辺万里

Colaboradores:
スペイン政府観光局 www.spain.info
Asociación Cultural Española スペイン文化協会
スペイン語 ADELANTE www.adelante.jp
スペイン語の本＆雑貨 www.adelante-shop.jp
スペインフェア

スペイン語 ADELANTE www.adelante.jp

¡Vamos a estudiar español! スペイン語レッスン

無料体験レッスン ご予約はこちら

スペイン語教室アデランテ（JR大阪駅「桜橋口」徒歩5分）
TEL: 06-6346-5554　受付時間：月～土8:30～21:30
info@adelante.jp　www.adelante.jp

アデランテで学ぶ 理由 razón 1

スペイン語に特化した教室

だから、教室の中はスペイン一色！スペイン直輸入の書籍もたくさん販売しております。

アデランテで学ぶ 理由 razón 2

講師は全員ネイティブ

だから、留学気分でスペイン語を学習できます。

フレンドリーな講師とスタッフがお待ちしています♪

アデランテで学ぶ 理由 razón 3

グループレッスン振替制度あり

だから、欠席しても安心です。事前にお知らせいただければ、他のクラスのレッスンを受講いただけます。

アデランテで学ぶ 理由 razón 4

イベントもりだくさん♪

だから、生徒さん同士の交流も盛んです。皆さんスペイン・中南米好きなのですぐに仲良くなれますよ！

毎年お花見やクリスマス会など開催しています

新規開講 入門クラスのご案内

2017 Junio

2017年6月開講（各クラス定員4名）

月曜日 18:30-19:20（2017年6月5日～8月21日）
火曜日 10:30-11:20（2017年6月6日～8月22日）
水曜日 19:30-20:20（2017年6月7日～8月23日）
木曜日 20:30-21:20（2017年6月8日～8月24日）
土曜日 10:30-11:20（2017年6月10日～8月26日）

1レッスン：50分
受講料：全12回 44,160円（税込）※分納可
教材費：1,944円（税込）
初心者の方対象の新しいクラスなので
スペイン語が全くはじめての方でも安心♪
※定員になり次第締め切りますのでお早めにお申込ください。

体験レッスン後のお申込で 入会金OFF! ~~10,800円~~

ミケルのスペイン料理会

2017年6月4日（日）

時間：　11時～16時頃まで
場所：　クレオ大阪東 クラフト調理室
（大阪市立男女共同参画センター 東部館）
参加費：4,500円
持ち物：エプロン、三角巾、ふきん

＜お申込み＞ 5月31日（水）までに下記までご連絡、参加費と合わせてお申込ください。
有限会社 ADELANTE　06-6346-5554

MENÚ

Pincho de pescado con verduritas fritas
魚と野菜のてんぷらのピンチョ

Huevo pochado con migas y setas
ポーチドエッグ（ミガスとキノコ添え）

Crema de lentejas con aceite de pimentón y semillas de calabaza
レンズ豆のクリーム（ピリ辛ソースとかぼちゃの種を添えて）

Paella negra con alioli
アリオリ風味のイカスミパエリア

Pincho de chocolate con aceite de oliva y sal
チョコレートとオリーブオイルのデザートピンチョ

テーマ別に楽しく学ぶ、単発レッスン

ADELANTE

Aprende español con arte y cultura

魅力いっぱいのスペイン語圏の芸術、文化、伝統に触れてみましょう！！ このレッスンでは題材ごとに映像資料や特別教材を使用します。語学の勉強と一緒に、スペイン語圏の世界についてさらに知識を深めることができます。

お申込 お問合せ
スペイン語教室 アデランテ
☎ 06-6346-5554
✉ info@adelante.jp

受講料　現在受講中の方：3000円　一般の方：3500円

レッスンスケジュール（2017年春・夏）スペイン語全レベル対象

- 6月24日（土） 13:30～15:20
  パンプローナのサン・フェルミン祭
- 7月22日（土） 13:30～15:20
  スペインの伝説と物語
- 8月26日（土） 13:30～15:20
  ブニョールのトマト祭り

担当講師
Maialen García 先生

¡Disfrutamos y aprendemos!

追悼特集

スペインを生きた芸術家、堀越千秋

企画協力：画廊香月／ギャラリーモリタ

2016年9月
ART FAIR ASIA FUKUOKA
レセプション（福岡／博多座）
©Daisuke Ikeda

Muchas gracias Chiaki

スペイン・マドリードを拠点に活動した画家・堀越千秋さん（1948年11月4日 -2016年10月31日）。絵画、エッセイ、陶芸、カンテなどさまざまな芸術分野で活躍され、スペインの生き生きとした風土をそのまま体現したような、奔放かつ力強い生き様で私たちを魅了してくれました。今回、堀越さんと深く交流のあった方々に貴重な追悼文、たくさんの写真をお寄せいただきました。まさにスペインと日本の「架け橋」として生きた堀越さん。その素晴らしい活動の軌跡を、文、写真、経歴や作品を通してお届けします。

画廊香月 / ギャラリーモリタ 25周年記念特別企画 堀越千秋展
2015年6月「アーモンドの咲くころ」
©Shunichiro Morita

とかげは今日も 小鳥の真似 土の真似

香月人美=文
TEXTO=HITOMI KAZUKI

1997年「白岳しろ」TV CF スペインロケ
©Shunichiro Morita

「ヒトミちゃん、わしの仕事いっぱい創ってくれや、そうしたらみんなに会えるやろ」

末期のがんが堀越千秋のからだを蝕んでいた。

2016年の堀越千秋展は、北海道/帯広、東京、福岡、再び東京と三つの都市で五つの展覧会を開催した。10月の絵本原画展 原作/E・A・ポー 文・絵/堀越千秋『大渦巻き』は生前最後の展覧会となった。作品は鮮やかな青、緑、紫を基調とした色彩のなか鋭い黒い線が紙の上でうねり、冴え渡る月明かりの静けさと極限の彼方で欲望に翻弄される人間の切ない哀しみが同居していた。オープニング前日、「明日、心配せんでええからな、わしの代わりにギタリスト用意したから、いつもみたいに皆に酒振る舞って愉しんでくれや」とマドリードの自宅から電話をよこした。そしてレセプション当日「そんな約束してないよ、さっきだよヒトミちゃんが落ち込んでるからギター弾いて慰めてこいって、千秋さんらしいよなー」と若林くん。皆、大笑い、それから泣きだした。その日を境に刻一刻と容態が変貌する堀越の報せが届くたびに、ギャラリーは現実の大渦巻きに翻弄され、のみ込まれていった。

堀越千秋との出会いから27年。どんな些細な思いつきも、「へっへっ、おもしろい、それ、やりましょ!」 ではじまった二人三脚。画廊香月初個展のこと。街路樹の下で人々が見守るなか5mの看板にうねるような黒い太い線で「志賀島」を描いた。画廊を超え街に跳びだし、カフェ、レストラン、BAL、酒蔵、銀行、エレベーター、病院、個人宅、あらゆる時、あらゆる場所に描いた。ときにカンテを口ずさみ、土を練り、エッセイを書いた。超高級マンションには竹と萱草と二枚の畳で茶室。熊本の高橋酒造「白岳しろ」初CM出演では、アンダルシアロケと義兄弟アグヘタファミリーの棲みかへ。アジア美術館では、ジャズピアニスト板橋文夫、韓国のチェソリとのコラボレーションとライヴペインティングがNHKで放送された。後「横浜ジャズプロムナード」に毎年出演。日本最大のロックフェスティバル「フジロック」に招かれアグヘタファミリーのディエゴとミゲルと共にカンテで熱狂させた。福岡に共同で「アフィシオンレコード」を立ち上げ『フラメンコの仙人たち』をリリースした。三菱地所アルティアム福岡で展覧会「He has gone over to Spain」、北海道帯広神田日勝美術館で「西の国から」を開催、さらに「ART FAIR ASIA FUKUOKA」のロゴマークを制作、公では最後の登場となるアジア美術館での特別講演「美を見て死ね」では私と対談、そしてサプライズでカンテを絶唱し観客を湧かせた。

堀越千秋とは誰だったのか。あの零れるような笑顔の奥から光の矢を放つような眼差しで、一瞬の内に傍にいる者を魅了する“獣と子供の魂を持つ生きもの”そして、恐るべき“天才芸術家”。

私の最大の理解者だった。今日まで私がギャラリストであるとしたら、堀越千秋の存在なくしてはありえない。私の根底を見抜き、評価し、担ぎ、信頼し、勇気と希望を与え、導いた。出会って間もない頃、堀越はこんな言葉を寄せた。

「かづきひとみとは何か? …するとある日、会う機会が訪れたのである。西武線東伏見駅にて。黒っぽいボロ布をまとった”もの”が、ぞろり、ぞろりとやって来た。そして「わわわわわ」と何か言った。だから、はじめから、“人美”は美人として僕の前に登場したわけではない。それから車に同乗して、温泉かどこかに行ったのだった。車内でかづきひとみは、控えめな女、であった。が、これはただ黙っているだけではないな、と私(探偵だから“私”)は、直感した。いやいや今でも彼女はとても控えめなひとである。クリームソーダに差し込まれたストローのように、控えめである。たまにくるくる回って、ソーダとアイスをかき混ぜたりする程度。そして音もなく薄緑色のソーダを時折吸う程度。しかるに諸君、ソーダは沸騰し、アイスは爆発し、コップは砕け散るのである WHY??」

銀座の画廊香月の扉に描かれた種子の芽吹きを想わせるような黒く太い躍動する線が私に問いかけてくる。

「いま! ここで!
自分がおもしろいと思うことをやりなはれ!!」と。

とかげは今日も
小鳥の真似
土の真似

香月人美 Hitomi Kazuki/朗読者/ギャラリスト/アートディレクター
1958年 福岡市生まれ。1991年 福岡市に《画廊香月》開設。ジャズやカンテ・フラメンコと展覧会をクロスさせる等、ライブ感溢れる企画ギャラリーとして注目される。1997年 詩の朗読と舞踏が出会う舞台芸術の世界に踏み出し、舞台作品の制作上演活動に入る。2009年「ギャラリーは劇場、作品はもの言わぬアクター」というマニフェストを掲げ、東京原宿に《月下の果実會》を起ちあげる。2011年 3.11直後の銀座に《画廊香月》開設。2016年 ART FAIR ASIA FUKUOKAのExecutive Directorに就任。東京都在住。

堀越千秋先生がおいでなさる天国は、恐らく、永く住まったスペイン・マドリードの一隅や、神泉村のような楽しい美境でしょう。御冥福あれ！

平山靖子・平山廉三=文
TEXTO=YASUKO HIRAYAMA / RENZO HIRAYAMA

新宿百人町の公務員宿舎で行われた恩師、解剖哲学者の三木成夫先生と桃子夫人の鍋パーティー……そこで我々は堀越さんとご対面。

当時、氏はスペイン国費留学生としてマドリード滞在中。スペインでは、生活費の足しと好奇心から闘牛場での売子バイトをやっておられたとか。闘牛場で目にされた猛牛と人との死闘。猛牛の四肢揺り、頭の上げ下げの角振りの仕草。さて、どの方向、どの角度から突進するか？　氏は、牛の一挙肢一投足を形態模写で披露された。さてさて、堀越さんの視覚および視覚保存装置はどうなっているんだ？　と、一同が唖然。

その後、堀越さんは、神田神保町・丸の内・銀座・四谷・赤坂そして博多などの地で多くの個展を開きましたが、どの会場にも足を運ばれ、吾子の幼少時の画才の非凡とそのエピソードを、目を細めて語るお母上の姿も楽しいものでした。

堀越さんは飾らず伸々と誰にでも細かい心遣いをなさる方でしたが、天皇・皇后両陛下にご覧賜った小島章司フラメンコ舞台。その見事な美術の苦労・内輪話について皇后様からご質問があったとき……。堀越さんは、慌てふためき直近の方からネクタイを奪い威儀を整えて皇后様の前に立つや。皇后様直々の「堀越さんならネクタイなしで……」とのお言葉に「ヘイヘイ……以後は……」と応答する天真さ。

並はずれの天分と天真さとが束となって盛り上がる恒例の神泉村山中の巨大な登り窯炊き……陶芸イベントともなれば、一山は、大戦場の活気と和気藹々（あいあい）さの極み。その堀越氏が手掛けさえすれば画&陶器&落書き&イベント……全てが大らかさ伸びやかさで優美。

さて、氏の晩年。気楽に、坦々と、ときに眦（まなじり）を決して、楽しみながら描いていたのがANA「翼の王国」の表紙絵。

あるとき、ボソボソ鼻歌交じりで作業されており、鼻歌は田原坂の一節。「馬手（めて）（右手）に血刀、弓手（ゆんで）（左手）に手綱……」の口遊（くちずさ）みに「ヘェー堀越さんも民謡を歌うんだワィ」と茶々を入れると、「絵描きは、目と手を描く作業に極集中!……そのときのお呪（まじな）いがメテ・メテ!エッヘッヘ!」という、相変わらずの悪戯児の目での滅多にないお諭し。

そういえば、氏は中野三中水泳部……何よりも水泳好きの堀越さんが心地よく描き上げた……と自賛の「**泳ぐ少年**」。多くの孫達に囲まれた老晩年の法皇様の、デレッとした至福を眼と手に込めたティツィアーノと同様、この小僧を見守る水着姿の婆ちゃんの目と手。力泳する少年の眦。それと同調した両腕。気の遠くなるような水かきと水滴群。これで渾身の泳ぐ少年の図の完成!!

目…眼、そして手。よし!河童を描くぜ!!……と渾身の作業を続け……会心の河童の完成だ!!……と喜び勇んで出版社に提出。あろうことか……この真迫さたるや、……不気味すぎて表紙絵には不適……没……との御託宣。

珍しく落胆の極みにある氏を、夫婦二人でアトリエへ電撃訪問のお見舞い。大きな書斎の大机の前の大壁に×を賜った河童……絵はたったの一枚……だけが　**ポツン**　と。

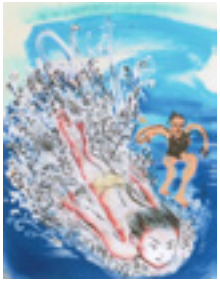
多才の氏は、絵画・陶芸の制作、およびカンテ熱唱の合間、週刊朝日に「美を見て死ね!」を延々と連載なされた。コダワリが少なく、独特のアッケラカンたる美術評が大々好評。その連載100回記念に、「たった一点だけ自作を」と乞われた氏は、何たることか……この河童を選ばれた。

目力と手力……を深く知り尽くした堀越さんの境地が　**河童**　であり、人間が具備する卑屈さと猜疑心、そして虚無感などを河童の目と手に託して楽々と描き上げた天才。これが、堀越千秋画伯であろう。

©Hitomi Kazuki

平山靖子 Yasuko Hirayama
平山廉三 Renzo Hirayama
堀越千秋の古くからの友人。共に東京芸術大学教授の三木成夫に師事。画家の初期から晩年までの数多くの作品に親しむ。2013年5月、自邸で堀越千秋展「はるかなる日々」を開催。

「河童遊楽図」
週刊朝日「美を見て死ね」vol. 100掲載



「泳ぐ少年」
ANAグループ機内誌「翼の王国」表紙絵

写真タイトル『オフィーリアを探して』 ©Hidetoshi Kumagai

追悼、堀越千秋さん。

川成洋=文
TEXTO=YO KAWANARI

実に遠くから聞こえるデカイ笑い声、いつも絶やさない笑顔。こんな人と出くわすとつい自分もそれにつられてしまい、自分が抱えている心のわだかまりも寸時にとけてしまう。そう、堀越千秋さんのことだ。

彼と初めて会ったのは、1991年6月のマドリードだった。日本テレビの「スペインで活躍している日本人と会う」という対談番組だった。約束の時間にテレビクルーと一緒に彼のアトリエに着くが、そこに彼はいなかった。ドアに鍵がかかっていなかったので、撮影機材もあるし、ひとまずアトリエの中で待つことにした。無造作に壁に掛けられていた描きかけの絵を見ながら、われわれは独自の絵解きと品評をした。とても勝手気ままな絵解きであった。

しばらくして、ドアのところからデカイ笑い声が飛び込んできた。堀越さんが二階に上がってきたのだ。彼の遅れた理由が狂っていた。アトリエのオーナーとちょっとしたことでもめたそうだ。そのオーナーが、なんとカトリック神父だったのに、愛人を作って「転んだ」のだった。どうも「転び神父」のことが気になるようだ。性格が悪いとか、何とか……、自己紹介を兼ねてこの重大な「宗教的」な議論がひとしきり続き、「ケシカラン!」という言葉が時々飛び出したのだった。私もこの種のテーマに興味があり、その極めつけは、1977年になるが、イギリスのケンブリッジ大学にいたころ、『タイムズ』紙の第一面を堂々と占領した出来事であった。カトリックがいわば「国教」になっているアイルランドの首都ダブリンの大司教で枢機卿、つまりアイルランド・カトリック教会の最高位の聖職者であるが、実は彼は相当前から愛人を囲っていて、二人の間の息子が見つかってしまったのだ。このスキャンダルなニュースが数日続き、元大司教一家はニューヨークに移り、幸い彼はD.Phl.(神学博士号)を取得していたので、ちゃっかりアメリカで地方の大学教授に収まったという。だから神父ごときの女狂いにいちいち気を揉むべからず。スペインでは、数千件ぐらいこのようなケースがあって、みんな「転ばず」うまくやっているそうだ。それだけではなくて、「神父の妻帯を認めろ」といった運動も起こり、ヴァチカン当局も頭を抱えているようだ……。というのが私の結論だった。それにしても、初対面とはいえ、この話題が一挙にわれわれの距離を縮めたのだった。

収録が終わり、近くの劇場で行われているフラメンコ・カンテのライブに直行した。たった一人の老カンタオールのカンテに、これほど多くの聴衆が酔いしれるとは、まったく驚いたのだった。

堀越さんは、日本とスペインで交互に仕事をしていた。それも、絵を描き、エッセイ集を出し、陶器を焼き、さらに都内のタブラオでカンテを歌う。私も、何回か聴きに行った。まさにプロであったし、魂を込めて歌う品のいいエンターテイナーであった。カンテをスペイン語、そして場合によっては日本語でも歌うことがあった。スペインですでに、CDを何枚かリリースしていた。それに、真偽のほどはともかく、この声量でマドリードのラジオ局のマイクロホンを壊してしまったという武勇伝(?)の持主だそうである。

私との仕事では、私が編集したスペイン関係書に、1981年2月のテヘロ中佐の国会乱入によるクーデター未遂事件、2004年3月のアトーチャ駅でのアルカイダによる列車爆破事件などに関して、マドリード在住の彼ならではの明快な解説をしてくれた。そして2005年11月、福岡県での「『ドン・キホーテ』出版四百周年記念パネルディスカッション」で同席したが、途中で突然、司会者から「カンテを」と促されて、「エー、こちらにおられる先生方とインテリジェンスあふれる会話をと思いましたが……(笑い)」と遠慮がちに言いつつも、ステージの真ん中に立ち、十八番(おはこ)のカンテ「ソレア」を披露した。その直後、しばしの間、会場全体が水を打ったように静かになった。

《合掌》

©Yo Kawanari

川成洋(写真右から2人目)、坂東省次(acueducto編集長 3人目)、堀越千秋(6人目)(2005年11月/福岡・宮地獄神社)

川成洋 Yo Kawanari
1942年札幌で生まれる。北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士課程修了。社会学博士(一橋大学)。法政大学名誉教授。スペイン現代史学会会長、武道家(合気道6段、杖道3段、居合道4段)。書評家。主要著書:『青春のスペイン戦争』(中公新書)、『スペイン―未完の現代史』(彩流社)、『ジャック白井と国際旅団―スペイン内戦を戦った日本人』(中公文庫)他。

2015年個展「ママー・デ・ミス・エントラーニャス（我が腸の母）」　©Hidetoshi Kumagai

©Gonzalo Robledo

二人は、『ドン・キホーテ』という舞台の
ドン・キホーテとサンチョ・パンサで、
運転が麗しのドゥルシネーア・デル・トボーソ、
という見立てであった。

荻内勝之=文
TEXTO=KATSUYUKI OGIUCHI

堀越との出会いは、フラメンコの歌の会だ。1979年、歌手マヌエル・アグヘタの舞台に、二人とも、かぶりついていた。その時のことは、フラメンコ誌「パセオ」で書いた。

以来、途絶えることなく付き合ってきた。まだ、マドリードのプラサ・マヨールが割と安全で夕方のお茶に向いていたころは、日本人の絵描きや物書きが待ち合わせたかのように一緒になって、堀越もその常連で、幾時間も駄弁った。マヨール大路のカフェ・チキでも安いブランデーの杯を重ねて居続けた。ローマ法皇庁の出先があるヌンシオ通りのテラス・カフェでは、決まったようにカバのボトルを空けた。夜明けまで居座るのは当たり前だった。どこにも馴染みのカマレロがいて、座ればお決まりの飲み物が来た。地下鉄ラバピエスあたりの広場でカマロン・デ・ラ・イスラの歌を初めて生で聴いたのも堀越と一緒だった。カマロンが堀越の住む郊外地区アルコルコンで歌った時は早朝のタクシーで都心へ帰った。ギターのトマティートがレティロ公園で弾いた時も一緒だった。セビーリャのフラメンコの祭典ビエナルには、ひと月近くもセビーリャにいて会場に通い、カタツムリやイソギンチャクを好んで食い回った。

闘牛場の向こう正面に堀越が居たりして写真に撮ることもあった。マドリードの我が家で喋るときは、塩干しのバカラオ鱈の戻しエスケイシャーダを刺身感覚で食った。ガルバンソ豆と豚の煮物コシードも大量に作った。25人分作ったこともある。そこにも堀越はいた。二人で美人ギャルをひきつれているときは一桁違う店へ行った。帰りに鍵を失くして堀越のアトリエの床で寝たこともある。

東京・国分寺のほんやらどう、西荻窪のル・マタン、銀座の三州屋も、いつもの店であった。絵を飾らない我が家で、堀越が、美的に許さん、といって家具を五階の窓から捨てようとしたこともある。マドリードで東京から来た美しい女流ギタリストと知り合って二人とも舞い上がった。セビーリャの川では巨大帆船へ自転車式ボートを漕いだ。アンダルシアのロンダでは山中の景色を愛でながら歩いていると、突然、谷底の密林からラバがヌーっと現れた。その時の堀越の反応が忘れられな

マドリードのアトリエ ©Shunichiro Morita

い。ラバは薪を満載し、父と娘らしい二人がひいていた。娘の顔は髭もじゃであった。堀越は、あの娘は自分が女であることに気づいていないかも、と言った。美しい環境にいないと美しいものは描けない、という会話をしていた時であった。

ロンダには友人が多く、水洗トイレの壊れた家で三週間、ワイワイガヤガヤ過ごした。深夜、泥酔のまま、四人乗りの車で六人がモロンの洞窟近くのフラメンコ人を訪ねた。マドリードで歌手ラファエル・ロメロと会って日本招聘の話をした時も一緒だった。マドリードの王宮前広場で、深夜、ギターの俵英三も一緒に、フラメンコごっこをしたこともある。

堀越が荻内勝之訳『ドン・キホーテ』の挿絵を描く話が進んでからは、三度、四度とラ・マンチャを訪ねた。普段は砂漠のようなラ・マンチャが豪雨になって、宿の床下の水をかいだしたこともある。本が出てからは、二人が車でドン・キホーテの道を行くテレビ番組の企画が進んでいた。荻内が喋り、堀越がスケッチ、車の運転がスペインの若い女優という企画であった。二人は、『ドン・キホーテ』という舞台のドン・キホーテとサンチョ・パンサで、運転が麗しのドゥルシネーア・デル・トボーソ、という見立てであった。

荻内勝之 Katsuyuki Ogiuchi
1943年ハルビン生。神戸市外国語大学イスパニア学科卒、バルセロナ大学文学部イスパニア研究科卒、神戸外大大学院修士課程修了、1970年東京経済大学専任講師、助教授を経て1989年教授。スペイン文学者、東京経済大学名誉教授。東京闘牛の会 TENDIDO TAURO TOKYO 会長。主要著書・翻訳書:『ドン・キホーテの食卓』(新潮社)、『スペイン・ラプソディ』(主婦の友社)、『おっ父ったんが行く』(福音館日曜日文庫)『ドン・キホーテ』全4巻(新潮社)他。

心の底から捧げるオマージュ

セルバンテス文化センター館長
アントニオ・ヒル＝デ・カラスコ=文
TEXTO=ANTONIO GIL DE CARRASCO
橋本安代=翻訳
TRADUCCIÓN=YASUYO HASHIMOTO

偉大な画家、フラメンコ・カンテの名手としてだけでなく、人としてもこの上ない人物だった彼に宛ててこの追悼文を書くことが、私にとってどれだけ辛いことか、お察しいただけるかはわからない。

堀越千秋先生に、心の底から捧げるオマージュの一環として、この場をお借りして別れの言葉を簡潔・明解に述べたい。

清廉潔白、優秀、正直、批判的、温和、*グルメ*、賢明、悲嘆、生命、悲しみ、絶望、闘志、明快、型破り、思いやり、悲観、敏感、開放的、遠慮、*活気*、夢、フラメンコ、倫理、勇気……　私が羅列したこれらの言葉を使って、皆様に文を組み立てていただくことで、この偉大な芸術家である堀越千秋先生に私が伝えたいことを垣間見ていただけるだろう。

堀越千秋先生は、あらゆる意味において私が尊敬する人物だった。彼の芸術性は、自身の道徳的資質に内在していた。彼は非常に多様なテーマについて語り、常に私の意見と同じではなかったが、正直で聡明で「優秀な」人物から発せられる言葉には、いつも深く考えさせられたものだった。

千秋、僕の国とはこんなにも文化の違う日本に僕がやって来てから僕が戸惑い続けたこの数年間、きみが明るい声を聞かせ続けてくれたことに感謝している。きみは、僕に起きたすべてのことを常に道理・不条理、正誤など関係なく、よくわかってくれた。

きみという人、それからきみからかけられた言葉の数々に心から感謝している。昨日も今日も僕はきみの言葉がまたすぐ聞こえる気がしている。そして今、明日はもうそれがないと思うと不安感と戸惑いに打ちひしがれる。きみの言葉はいつも、僕に人としての自信と希望をくれた。時が経つとともに僕は、きみという真の道徳的気概の持ち主が僕のそばにはもういないということを実感していくことになるだろう。

千秋、僕は、信仰や生命、死後の世界などから逸脱した次元において、きみのような天才が死ぬことはないと信じている。きみの作品、きみの歌、きみの言葉、きみの気持ち、きみの気質は、いつも何らかの形で僕たちの中に生き続けるだろう。

さようなら、千秋。

第1回クンプレ・フラメンカ（企画協力/堀越千秋）でカンテを熱唱

©Instituto Cervantes de Tokio

堀越千秋展 画廊香月(福岡) ©Shunichiro Morita

Antonio Gil de Carrasco アントニオ・ヒル・デ=カラスコ
1954年グラナダ生まれ。作家、ジャーナリスト。文学博士。哲文学部卒業。教職課程履修。
セルバンテス文化センター 東京(日本)現館長。

堀越 千秋

Chiaki Horikoshi

1948年東京都文京区生まれ。
画家、エッセイスト、陶芸家、カンタオール（フラメンコの歌い手）。
東京芸術大学大学院油画科専攻修了。
1976年スペイン政府給費留学生として渡西後、スペイン・マドリード在住。

■Art-exhibition（一部抜粋）

2017
- 「赤土色のスペイン」挿絵原画展（東京/画廊香月）
- 「Infinity Japan Contemporary Art Show 2017」画廊香月（台北/Miramar Garden Hotel）
- 「ART in PARK HOTEL 2017」画廊香月（東京/パークホテル）

2016
- 「西の国から」企画:画廊香月（北海道帯広/神田日勝記念美術館）
- 「西の国から」（東京/画廊香月）
- 「ART FAIR ASIA FUKUOKA 2016」画廊香月（ホテルオークラ福岡）
- アートフェア アジア フクオカのロゴ制作
- 講演 特別企画「美を見て死ね」（福岡アジア美術館）
- 「ART SAPPORO 2016」ギャラリーモリタ（札幌/クロスホテル）
- 絵本原画展『大渦巻』（東京/画廊香月）
- 「西の国から」（福岡/ギャラリーモリタ）
- 「ART in PARK HOTEL 2016」画廊香月（東京/パークホテル）
- 「ART KAOHSIUNG 2016」ギャラリーモリタ（台湾高雄/City Suites Kaohsiung）

2015
- 「ママー・デ・ミス・エントラーニャス 我が腸の母」（東京/スペイン大使館）
- 「アーモンドの咲くころ」（東京/画廊香月）
- 画廊香月/ギャラリーモリタ創設25周年記念特別企画「堀越千秋展―アーモンドの咲くころ」（福岡/ギャラリーモリタ）
- 「ART FAIR ASIA FUKUOKA 2015」画廊香月（福岡/ソラリアホテル）

2014
- スペイン国王より、エンコミエンダ文民功労賞受賞
- 「横になって浮く」（東京/画廊香月）
- 「El Chiaki」越の寒中梅 純米大吟醸/新潟銘醸より発売

2013
- BS朝日「情熱の画家 スペインに生きる～ピカソの魂を訪ねて～」全国放映
- 「土の子」陶展（東京/画廊香月）
- 「水行く途中」（東京/画廊香月）

2012
- 「星の畑」（東京/一穂堂）
- 読売新聞原画展「水にうつる月」（東京/画廊香月）
- 第七回 月下の果実會（東京/画廊香月）
- 「はるかなる日々」（東京/平山郁夫）

2011
- 堀越千秋スペシャル「みずからみずへ」（東京/画廊香月）
- 版画展「黙示録へ至る」（東京/ギャラリーしらみず美術）
- 「わが陽のスペイン」（東京/セルバンテス文化センター）
- 「全部嘘」（東京/檜画廊）

2010
- ANA機内誌「翼の王国」表紙絵原画展（東京/永井画廊）
- 「月下事變の夏 2010」（東京/月下の果実會）

2009
- 松丸百合フラメンコ・ソロ・リサイタル「混沌の朝」舞台美術（東京/俳優座）
- 陶展「冬の花」（東京/ストライプハウスギャラリー）
- 小島章司フラメンコ2009「3 Pablos en La Celestina」舞台美術（東京/ル・テアトル銀座）
- 「堀越千秋版画展」（大阪/ギャラリー・アカンサス）
- 「河童の時代」（岡山/Galeria Punto）
- 「とかげは今日も、小鳥の真似、土の真似」（東京/月下の果実會）

2008
- 「堀越千秋版画展」（東京/プラスワン オフサイドギャラリー）
- 「河童が来た」（東京/プラスワン オフサイドギャラリー）
- 高野美智子フラメンコ舞踊公演「静しずか」舞台美術（東京/早月ホール）
- 「祭る～宮島」アートパフォーマンス（広島/宮島厳島神社）
- 「神泉村の国宝たち」（東京/ストライプハウスギャラリー）

2008
- 小島章司フラメンコ「越境者」舞台美術（東京/俳優座）

2007
- 小島章司フラメンコ2007 舞踊生活50周年記念公演「戦下の詩人たち<愛と死のはざまで>」舞台美術（東京/ル・テアトル銀座）
- 陶展「人を思へば」（東京/ストライプハウスギャラリー）
- 「堀越千秋展」（東京/檜画廊）
- 「ドン・キホーテ・デ・千秋」原画展（京都外国語大学）

2006
- 「フィエスタ・デ・千秋」（東京/ギャラリー岱玄）
- 「絵画と陶展 躍動の線と色」（東京/一穂堂サロン）

2005
- 陶展「秋の土を喰らう」（東京/ストライプハウスギャラリー）

2004
- 堀越千秋展（東京/ギャラリー・ガンヴリオン）
- フジロックフェスティバル出演 共演ディエゴ・アグヘタ、ミゲル・ヒターノ・デ・ブロンセ 企画:アフィシオンレコード（新潟/苗場）

2003
- 「単純作業」（東京/ギャラリー銀座涙美）
- 画廊香月と共同でアフィシオンレコード設立

2003
- 初陶器展（東京/ストライプハウス美術館）
- 「he has gone over to Spain in 1977」企画:画廊香月（福岡/三菱地所アルティアム）
- 「フラメンコの仙人たち」aficion展（福岡/画廊香月）

2002
- 「人が見たら蛙に化れ」（東京/ギャラリーしらみず美術）
- 「らせんの力」（福岡/画廊香月）
- 「フラメンコの仙人たち」音源・映像収録（スペイン/ハレス）
- 日韓交流ライブペインティング共演 板橋文夫、チェ・ソリ ライブ 企画:画廊香月（福岡/福岡アジア美術館）

2001
- 「踊る色彩」（福岡/画廊香月）
- ショーウィンドー壁画制作 企画:画廊香月（住友信託銀行福岡）

2000
- 「見て忘る」森澄雄句 堀越千秋原画展（福岡/画廊香月）
- 四人展（東京/ギャラリーしらみず美術）
- 「とんぼのあぶく」企画:画廊香月（新潟/小国芸術村会館）
- 版画展（東京/ギャラリーOM）
- スペインバルドミンゴ壁画制作 企画:画廊香月（熊本/花園町）

1999
- 堀越千秋の世界「鼓動」企画:画廊香月（福岡/サンローゼ博多）
- 百億年の笑い（東京/六本木スライプ美術館）
- ふぇすたふぇすた壁画制作 企画:画廊香月（福岡/天神）

1998
- 「スペイン・スケッチブック」（福岡/画廊香月）
- 「堀越千秋展」（東京/ギャラリー銀座涙美）
- 「堀越千秋展」（大分/みさき画廊）
- 「油彩・版画展」（東京/ギャラリー412）
- 「線描の魅力展」（福岡/画廊香月）

1997
- 「堀越千秋展」（東京/檜画廊）
- IMA 展「絵画の今日展」（東京/三越美術館）
- 「白岳しろ」高橋酒造 TV CF制作スペインロケ 企画:画廊香月（スペイン/アンダルシア）

1996
- 「堀越千秋展」（宮城/仙台 藤崎）
- 「さし絵原画展」（福岡/画廊香月）
- 「スペインのタベ」企画:画廊香月（佐賀/鹿島市矢竹酒造来蔵 SAKEホール）

1995
- カンテ・フラメンコの宵 Hapana Hapa Vol.1 企画:画廊香月（福岡/ホテルシーホーク SOTOKOTO CLUB）
- 「堀越千秋展」（東京/ギャラリー銀座涙美）
- 「天国と地獄の果実」（福岡/画廊香月）
- IMA 展「絵画の今日展」（東京/三越美術館）

1994
- 「マイトレーヤの散歩」絵本原画展（福岡/画廊香月）
- 新潟県長岡大花火三人展出品（新潟/小国芸術村館）
- スパニッシュラビアンローズ（大阪/キリンプラザ大阪）
- 七人の画家達（東京/丸の内画廊）
- 三人展（長岡/商工会議所美術文化ホール）

1993
- IMA 展「絵画の今日展」（東京/三越美術館）

1992
- 「堀越千秋展」（大阪/ヨシアキ・イノウエギャラリー）
- 「堀越千秋展」（東京/丸の内画廊）

1991
- 朝日新聞連載小説・斜影 はるかな国/逢坂剛著挿絵展 三人展（セビージャ/ガルリア・ニエル・ロ）

1990
- 個展（サラマンカ/パロン・ギャラリー）
- 「スペインの伝統とニューウエーブ展」（東京/丸の内画廊）

1989
- 東京・ソウル・マドリッド Exhibition Show（東京/丸の内画廊）（ソウル/韓国画廊）（マドリード/A.ロメーロギャラリー）
- 「三木成夫追悼展」（東京芸術大学）

1988
- グループ展（バーデン/トルーデルハウスギャラリー）

1987
- 「現代形象展」（東京/ストライプハウス美術館）

1986
- 「堀越千秋展」（東京/丸の内画廊）

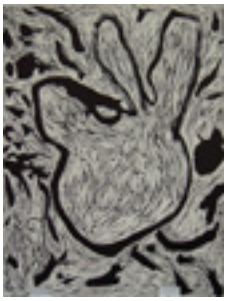
1982
- 「堀越千秋展」（東京/東京セントラル絵画館）

1980
- 「堀越千秋展」（マドリード/エストゥディオ・ソトメサ）

1974
- 三人展（東京/檜画廊）

「大渦巻き」
原作 / E・ポー 文・絵 堀越千秋 架空社

「画家シリーズ8」
木版画 1994年 画廊香月



「画家シリーズ9」
木版画 1994年 画廊香月

「鉄火フラメンコ」
CD盤面 2003年
アフィシオンレコード

堀越千秋の著書（抜粋）

スペイン七千夜一夜
1999年 集英社

ドン・キホーテ・デ・千秋
2005年 木楽舎

絵に描けないスペイン
2008年 幻戯書房

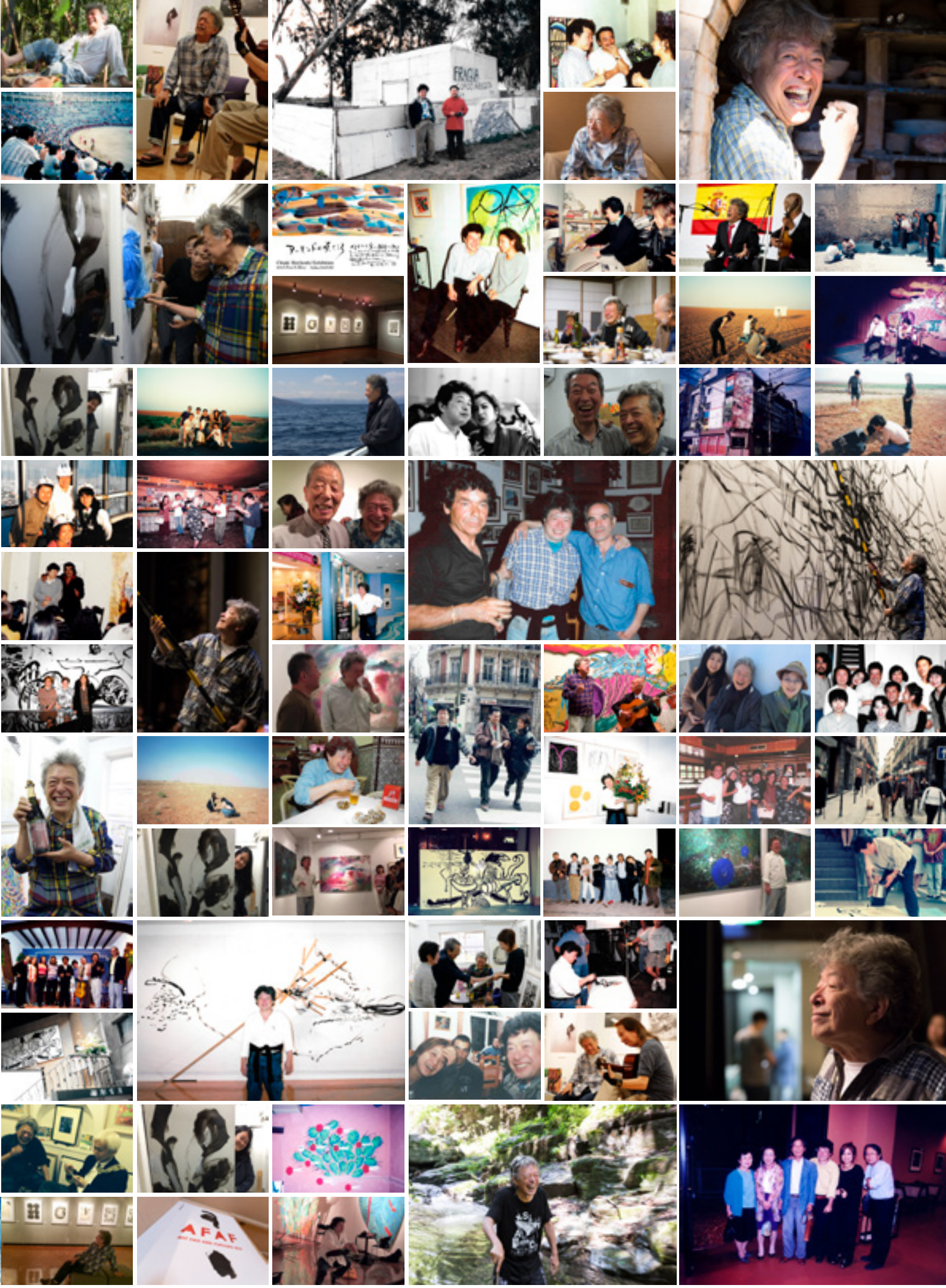
赤土色のスペイン
2008年 弦書房

堀越千秋追悼 第1弾
赤土色のスペイン
挿絵原画展

スペイン在住30余年、画家であり、カンテ（フラメンコの唄）の名手である堀越千秋がスペインと日本のフラメンコ!な日常を辛口のユーモア溢れるエッセイで綴る。
好評だった2つの新聞連載（読売新聞「赤土色のスペイン」／西日本新聞「人の上は空である」）を収録、2008年 弦書房刊 。カラー88点、モノクロ50点の挿絵原画を一挙公開!!

開催期間
5|20 SAT
↓
6|10 SAT
13:00 → 18:30
（初日は17:00からオープニングレセプション）
［日・水 休廊］

画廊香月
〒104-0061
東京都中央区銀座1-9-8
奥野ビル605
tel/fax 03-5579-9617
E-mail: luna.kazuki@gmail.com
www.g-kazuki.com



©Hitomi Kazuki　©Hidetoshi Kumagai　©Shunichiro Morita 他

colegiodelibes
Y TÚ... HABLAS ESPAÑOL?

Avda. Italia, 21. 37007. Salamanca. España
Tel: +34 923 120 460 Fax: +34 923 120 489
www.colegiodelibes.com
delibes@colegiodelibes.com

Salamanca ¡Te está esperando!

様々な国籍の学生で溢れ、
いつも活気のあるColegio Delibes。
充実したコース・アクティビティが自慢です。
あなたも一緒に勉強しませんか?

Salamanca へ行こう!

「学生の街」として有名なサラマンカ。この街では、訛りのないスペイン語が話されているため、スペイン語を学ぶのにぴったりの環境です。小さな街で治安も良く、親しみやすい雰囲気のため、世界中からたくさんの学生が訪れます。是非、サラマンカへお越しください!きっとご自分の家にいるような心地よさを感じていただけると思います。

Cursos
ニーズに合わせて
多様なコースをご用意

Clases
25教室 / 全10レベル
1クラス最大10名

Estudiantes
学生からシニア層まで
40ヵ国の国々から

Actividades
文化やスポーツなど、
様々なアクティビティを提供

Alojamiento
ホームステイ、学生寮、共同アパート
プライベートアパート、ホテル

コース料金、
宿泊施設など
詳細につきましては
お問い合わせください

EL ÁLBUM JAPONÉS DE LOS REYES

国王夫妻の
日本アルバム

宮中晩餐会（2017年4月5日、皇居（宮殿））

ゴンサロ・ロブレド / =文　井原 亜紀 / =翻訳
TEXTO=Gonzalo Robledo
TRADUCCIÓN=Aki Ihara

El efecto positivo de la visita a Japón de los reyes de España se notará a lo largo de los próximos años en las relaciones institucionales, económicas, científicas y culturales de ambos países. De momento nos queda un exhaustivo álbum digital que nos invita a analizar gestos, espacios y vestimentas.

En los cuatro días de la intensa agenda abundaron las miradas absortas de quienes se comunican a través de un intérprete y los gestos vacilantes de los que se adentran en costumbres desconocidas. Se confirmó que “besar o no besar” sigue siendo el eterno dilema de los saludos con extranjeros en Japón. La princesa Masako tuvo que interrumpir una genuflexión cuando el rey visitante se inclinaba a darle un beso. La futura emperatriz mostró al mundo la incertidumbre de quienes navegamos a diario en códigos culturales diferentes y puso en evidencia el escaso poder de los coreógrafos imperiales frente a la espontaneidad mediterránea.

Además del austero palacio imperial en Hibiya, que a menudo padece el comentario sarcástico de los fotógrafos extranjeros de “¿ Y dónde están los muebles ?”, la pareja real y su comitiva fueron agasajados en el neobarroco y teatral palacio de Akasaka. Los monarcas se alojaron en el hotel Imperial, ideado en la era Meiji para responder a las quejas de diplomáticos extranjeros, pioneros y duros, pero reacios a forjar relaciones bilaterales sobre un tatami.

スペイン国王夫妻の訪日の顕著な成果は今後、両国の各機関、経済、学問そして文化それぞれの関係において実感されることであろう。今、ここにはその詳細を余すところなく記したデジタルアルバムがあり、そこに写った表情や場所、衣裳などから今回の訪問を振り返ってみたいと思う。

まず、4日間の過密なスケジュールの中には、通訳を介してやり取りを交わす方々の熱のこもったまなざしが数多く見られた。と同時に、慣れない習慣を前に少しとまどうような表情も認められた。日本では外国人と挨拶を交わす時に『頬にキスをするか、しないか』はいつも迷うことなのだと思われるが、雅子妃は、背の高いスペイン国王が彼女にキスをしようと身体をかがめた時、膝を折り曲げてする儀礼を中断しこれに応えた。未来の皇后は、地中海岸諸国特有の挨拶に対して、宮中の儀典も及ばぬ臨機応変な態度で応え、異文化のなかで日々人生の航海を続ける人々が持ち合わせている不確実性を、世界に気付かせることとなった。

また、皇居の無駄を排したインテリアの中では、時おり『調度品はどこにあるのだろう』などという皮肉っぽい言葉を外国のカメラマンが口にすることはあるが、国王夫妻とその従者たちはネオバロック調にしつらえられた迎賓館赤坂離宮で手厚くもてなされた。また国王夫妻は帝国ホテルに宿泊されたが、ここは明治時代に来日した先駆者でタフな外交官たちが畳の部屋で両国の外交関係を構築するのは気が進まないと語り、その意見をもとに建設されたホテルである。

ゴンサロ・ロブレド / Gonzalo Robledo
1958年南米コロンビア、ペレイラ生まれのジャーナリスト/プロデューサー。1981年より東京在住。Euronews、Olympic Channel、Movistar、RTVEスペイン国営テレビなど国際メディア向けに、ルポタージュやドキュメンタリーなど数々のテレビ番組の監督・制作・プロデュースを手掛ける一方、スペインのEl País紙やコロンビアのEl Espectador紙などの主要紙に多くの記事を寄稿。日本国内では、ヒストリーチャンネル・ジャパン、BS朝日、日経BP社などと映像、出版で協力。

1 歓迎式典では両国の国歌が演奏された(2017年4月5日 / 皇居・宮殿東庭)
2 スペイン国王夫妻を歓迎しお出迎えになる天皇・皇后両陛下(2017年4月5日 / 皇居・宮殿南車寄)
3 在日スペイン人が招かれた、スペイン大使館主催のレセプション(2017年4月5日 / ホテルオークラ東京)
4 スペイン語圏文化の研究・教育関係者と交流される国王夫妻(2017年4月6日 / 帝国ホテル)
5 両国の科学技術協力推進事業関係者とともに(2017年4月5日 / 日本科学未来館)
6 「家康公の洋時計」を鑑賞(2017年4月7日 / 静岡・浮月楼)
7 歓迎式典で国王夫妻と挨拶された、皇太子・雅子妃夫妻、安倍晋三首相夫妻(2017年4月5日 / 皇居)

3

4

El guardarropa de la reina Letizia en Japón fue esculcado con rigor de aduanero saudí por la prensa de ambos países. En la maleta real se encontraron marcas como Felipe Varela, Armani Privé y Carolina Herrera, además de pendientes de Channel valorados en 6.400 euros y bolsos de Magrit de 300 euros. Algunos comentaristas en España se aventuraron a explicar el simbolismo de cada prenda y así el abrigo rojo carmesí del primer día fue calificado como un gesto de cariño hacia Japón y el vestido negro Armani Privé con mangas orientales como “un beso al aire” a la pareja del primer ministro Shinzo Abe y su esposa.

La próxima visita real se espera para 2018 cuando tenga lugar la entronización de Naruhito y Masako como nuevos emperadores. Tal vez para entonces el manual del protocolo imperial tenga ya un capítulo adicional titulado simplemente “Besos”.

さて、レティシア王妃の日本での衣裳の数々は、両国の報道機関によってサウジアラビアの税関職員さながらに厳しい目にさらされた。王妃のトランクにはフェリーペ・バレラ、アルマーニ・プリヴェ、カロリーナ・エレーラといったデザイナーの衣装が用意され、さらには6400ユーロ(約74万円)のシャネルのピアス、300ユーロ(約3万5千円)のマグリットのハンドバッグなども見受けられた。スペインの解説者の中には、あえてこれらの衣裳にそれぞれの意味づけをする者もいた。例えば、初日に着用された深紅のコートは日本国への親愛の情を表し、袖のところにオリエンタル調の意匠をこらしたアルマーニ・プリヴェの黒いドレスは、安倍晋三首相夫妻への心をこめた、でも実際には頬に触れない『エアキッス』を表している、といった具合に。

次回の国王夫妻の訪日は、2018年とも言われている皇太子徳仁親王と雅子妃の新天皇・皇后の即位の礼が行われる時であろうと思われる。恐らく、その時までには宮中にある儀礼に関する手引書にひとこと、『キスについて』という項目が付け加えられているのではないだろうか。

EL ÁLBUM JAPONÉS DE LOS REYES

6

7

P17～P19の写真 ©Casa de S.M. el Rey

パンとチーズとワインがあれば、

スペイン料理
あれこれ話

vol.7 Ensaladilla Rusa

文・写真　渡辺万里

サラダというより、まるでケーキのようにきれいに飾られて家庭の食卓に。大きな器に入ってバルのカウンターに並び、タパスの一つとして……。

スペインの色々なシーンで登場する「エンサラディージャ・ルサ（ロシア風サラダ）」という名前の料理があります。今日は、このサラダのお話をしましょう。

「代表的なスペイン料理を紹介するシリーズのはずなのに、ロシア風？」と言わないでください。名前はロシア風とついていても、スペインの食卓に欠かせない一品。簡単に言ってしまえば、ポテトサラダのお話なのです。

★確かにルーツはロシアだった？★

このサラダは別名「オリヴィエのサラダ」とも呼ばれますが、厳密に言うと、オリヴィエという人が発明したわけではありません。モスクワのホテル「エルミタージュ」の中の高級フレンチレストランで、シェフのオリヴィエが作る「ロシア風サラダ」があまりに美味しくて有名になったために、彼の名前で呼ばれるようになった、といわれています。

そしてこのオリヴィエのサラダは、今現在のスペインのエンサラディージャとは、ずいぶんかけ離れたものでした。まず大皿には、茹でたカモシカの肉、うずらの肉、クマのハム、燻製にしたサメなど。上にはキャビア、ケイパー、ゼラチン状にしたコンソメスープ。周りにはカニ、ロブスター、牛タン、さらに茹でたジャガイモ、ゆで卵、キュウリのピクルス。最後にマスタードとスパイスを加えたマヨネーズをかけて。

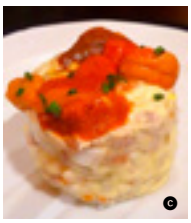
すごいでしょう？　あまりにも色々入り過ぎていて、逆に食指が動かないのではないでしょうか？　高価な材料がふんだんに入っているとはいえ、こんなに同時に使ってはそれぞれの味が生きるとは思えませんね。実際にオリヴィエがお客に出したところ、お客が皆、中身をごちゃごちゃに混ぜてから食べるので、次第に細く切って混ぜてから出すようになったといわれます。

それにしても、なぜサラダの中にこんなに豪華な材料を入れるのか？　ちゃんとしたメインディッシュで出せばいいのに？　と私は思ったのですが、その疑問に、カタルーニャのグルメジャーナリストはこんな風にコメントしてくれました。「ロシア人は、なんでも冷たいものを食べるのが好きなんだよ、たとえ寒い冬でもね。だから、一番のご馳走を全部入れて、サラダ仕立てにしたんじゃないかな？」……それがどこまで真実かは、ロシアに精通していない私にはわかりませんけれど。

そして、このサラダの人気の秘密は、マヨネーズの特別な味付けだったそうで、オリヴィエは誰にもそのレシピを教えずに死んでしまったため、ついに正確に再現することはできなかったといわれています。いったいどんな味のマヨネーズだったのか、今となってはわかりませんが、こんなドラマティックなエピソードを持つサラダが、今ではスペインの日常的なお惣菜の一つになっているというのも、皮肉な話ですね。

ついでに、歴史の谷間に残されたエピソードをもう一つ。それは、スペイン内戦後のフランコ独裁政権のもと、「ロシア風」という名前は国勢を削ぐというので「エンサラディージャ・ナショナル」、つまり国民サラダと改名させられたというお話です。政治の愚かさを象徴するようなこの手のエピソードは、残念ながら、どこの国にもいつの時代にもありますけれど……。

スペイン以外の国にもモスクワのオリヴィエのサラダは伝わって、色々なバージョンがありますが、今回はスペインのものに限って、エンサラディージャにはどんな中身が入っているのか見ていきましょう。



レストランのエンサラディージャ色々
a. マヨネーズを泡状にして　b. エビを載せて　c. ウニを載せて　d. いくらを載せて

★マヨネーズは手作りで！★

スペインに登場する頃から、オリヴィエのサラダは次第に簡略化されていき、豪華な材料は次第に影を潜めていきます。特に20世紀前半、内戦を挟んで貧しい時代のスペインでは、ごく質素な家庭料理としてのエンサラディージャが定番となっていきます。つまりは、シンプルなポテトサラダに落ち着いたということですね。

そこに何を加えるかという点については、当時人気のあったマルケサ・デ・パラベレという人の料理の本に、「もともとのレシピを再現することは困難なので、各自が好きなものを入れればいいだろう」と書かれています。スペイン人に「好きなものを入れていい」といったら、どんなに様々なバージョンが登場するかということを、彼女が想像していたのかどうかは疑問ですが、そういうわけで、ベースとなる材料だけが決まっていてプラスアルファの部分は好みで変えられるというのが、エンサラディージャの特徴でもあります。

それにしてもエンサラディージャの基本材料を眺めると、大抵のスペイン人がこの料理を好きだということが心から納得できます。何しろ、これこそスペイン人にとっての「美味しいもの」の集大成、といってもいいような材料が並んでいるからです。

まずジャガイモ。アメリカ大陸からヨーロッパへとジャガイモを運んできたのがスペイン人だということを別にしても、スペイン料理はジャガイモのオンパレードです。煮たり焼いたり揚げたりと一年中庶民の食卓で大活躍ですが、ここでは茹でたジャガイモを使います。

茹でるというのは、スペイン人に特に好かれる調理法とはいえませんが、それを一挙に美味しくするのがマヨネーズ。たっぷりのマヨネーズを加えたジャガイモは、一挙にスペイン人の「おいしいものリスト」のトップに躍り出ることになります。スペイン人は、実はかなりのマヨネーズ好きなのです。

ところでマヨネーズ、スペイン語ではマヨネサというソースは、ヨーロッパでも最も古いソースの一つといってもいいと思いますが、そのルーツは地中海に浮かぶメノルカ島だといわれています。そしてマヨネーズの材料はというと、卵、オリーブオイル、塩と酢。つまりは、オリーブオイルをベースにしたソースなのがわかります。だからこそ、オリーブオイルの味が大好きなスペイン人に、こんなにも好かれるソースなのですね。

ということは、今回のエンサラディージャにも、オリーブオイルベースのマヨネーズを使わなくては、スペイン人の好む味は再現できないことになります。そんなに難しくありませんので、ぜひオリーブオイルを使って、手作りマヨネーズを作ってみてください。やめられなくなる美味しさですよ。

ブレンダーがあれば、ごく簡単。全卵とオリーブオイルを一緒にブレンダーにかけて、最後にレモン汁と塩で味を調えればできあがりです。ブレンダーがなくても、ボウルに卵黄を入れてよく泡立て、そこに少しずつオイルを加えて乳化させていけば、同じようにできます。卵とオイルが出会って乳化するという性質を生かしたソースですから、卵が1個あれば、オイルを足していくだけで好きな量が作れるというのも、手軽で楽しいところです。エンサラディージャには、マヨネーズがたっぷり必要ですから、たくさん作ってくださいね。

そして基本材料の最後が、ゆで卵。実はこれも、スペインの家庭料理を語る上で欠かせない食材なのです。試しに、スペインの家庭や食堂、学食などのサラダをチェックしてみてください。かなりの確率で、レタスなどの野菜の上に切ったゆで卵が散らしてあります。こういう場合の茹で卵は飾りではなく、サラダに混ぜ込んで食べる大事な調味料。茹で卵の味が加わってこそ、シンプルなビナグレタ（ドレッシング）がまろやかでコクのある味に変貌するのです。というわけで、ここでも茹で卵を混ぜることで、ジャガイモとマヨネーズの風味は倍増。こうして、スペイン人の大好きなものばかりが揃った、エンサラディージャの土台ができました。

人気シェフ、チコーテのエンサラディージャ

街のバルのエンサラディージャ

★やっぱり最後は、我が家の味が一番★

ここからが「なんでも入れていい」という部分になります。

野菜としては、グリーンピースやニンジンなど、柔らかく茹でたもの。そして味のポイントには、ツナ缶、テーブルオリーブなど。さらに、上に飾るものとして、茹でたエビやホワイトアスパラ、赤ピーマンなど、彩りを添えてちょっとご馳走らしいものが選ばれますが、ここで面白いのがカニカマの存在です。スペインでは、魚介類に縁の深いバスク地方のような沿岸部でさえ、カニカマが、「シーフード」として立派に登場することがあるのです。エンサラディージャの上に誇らしげに飾られたり、お洒落なピンチョス（おつまみ）の上に堂々と載ったりしているカニカマを見ると、日本人の私としてはなんだか面映い気がするのですけれど、本物の蟹が高価なスペインで、日本の生んだ加工食品が思いがけず活躍しているのですから、喜んでもいいことかもしれませんね。

私の義理の妹、ティタも、エンサラディージャの上に時々カニカマを載せています。そもそも、私が作るエンサラディージャは、年々、ティタの味に似てきているのではないかと思います。主人の実家では、毎年クリスマスイブにティタの作るエンサラディージャが登場するので、その味が、私にとっての定番となってきているからです。手作りのマヨネーズたっぷり、ゆで卵たっぷり。ツナとテーブルオリーブの入った素直な味です。

そういうわけで私の場合には、エンサラディージャがクリスマスメニューとして頭にインプットされているのですが、実際には、どちらかというと夏の暑い時に美味しい一皿というのが、一般のスペイン家庭でのイメージだと思います。嫌いな人はあまりいないし、準備して冷蔵庫に入れておけるので、大勢人が集まる時の料理にぴったり。子供達も大好きです。バルのメニューでも、カウンターにずらっと並んでいるおつまみの中にエンサラディージャがあることは珍しくありません。

スペインの新聞やグルメ雑誌で「おいしいエンサラディージャ、トップ5」とか「マドリードのエンサラディージャお勧め店」などという記事を見ることもありますが、ポイントはマヨネーズの味とトッピングの種類あたりでしょうか。皆それぞれに好みが違うので、どこか一番と決めるのは無理な気がします。結局はこれも、「我が家の味が一番」という家庭料理なのですね。

レシピでご紹介している私のエンサラディージャは、ティタの影響で、かなりスペイン人好みの味付けだと思います。ただ飾り付けは、どうもいまひとつ。なかなか満足なできあがりになりません。スペイン人の飾り付けとは、どこか違う気がします。これはもう、料理のセンスではなく絵画的センスの違いでしょうか？
皆さんも、スペイン風なデコレーションができるかどうか、ぜひ挑戦してみてくださいね。

妹ティタのエンサラディージャ

盛り付けも形も色々な、
家庭のエンサラディージャ

渡辺万里　わたなべまり / Mari Watanabe　学習院大学法学部政治学科卒。1975年よりスペインで食文化史の研究に取り組むと同時に、スペイン料理界最前線での取材に従事する。1989年、東京・目白に『スペイン料理文化アカデミー』を開設。さらに各地での講演、執筆などを通してスペイン文化の紹介に携わっている。早稲田大学グローバルエデュケーション非常勤講師。著書に「エル・ブジ究極のレシピ集」（日本文芸社）、「修道院のうずら料理」（現代書館）、「スペインの竈から」（現代書館）など。

<スペイン料理文化アカデミー>
スペイン料理クラス/スペインワインを楽しむ会/フラメンコ・ギタークラスなど開催
〒171-0031 東京都豊島区目白4-23-2
TEL: 03-3953-8414　HP: www.academia-spain.com

日本のサン・セバスチャンをめざして。

歴史ある美食のプレミアムリゾート・軽井沢から美食文化（ガストロノミー）を発信します。

軽井沢の歴史ある「美食（ガストロノミー）文化」を支えているのは、豊かで良質な食材を届けてくれる信州の生産者たちと、新鮮な食材を芸術作品の域にまで昇華させる地元レストランの人気シェフたち。当プロジェクトは彼らの料理や表現を通して、美食文化を全国に発信し、軽井沢を「美食の聖地、日本のサン・セバスチャンに！」と願い活動しています。

お問い合せ　**Karuizawa Gastronomy Project　美食リゾート軽井沢プロジェクト**
http://bishoku-karuizawa.com/　info-spain@mbh.nifty.com　［スペイン料理文化アカデミー］

美食リゾート軽井沢
Karuizawa Gastronomy Project

エンサラディージャ

Ensaladilla Rusa

前の日に作って冷蔵庫に入れておけるので、忙しい時の献立にぴったり。ちょっと贅沢なトッピングを載せればパーティーの人気メニューにもなります。
マヨネーズから作る時間がないという時は、既製品のマヨネーズを少なめに使って、オリーブオイルをたっぷり加えてみてください。
カリッと焼いたパンを添えてどうぞ。

材料（4 人分）

ジャガイモ …… 大 3 個
卵 …… 2 個
グリーンオリーブ …… 8 ～ 10 個
ツナ缶 …… 1 缶
マヨネーズ …… 1 カップ
（卵黄 1 個、オリーブオイル 1 カップ、塩 小さじ 1/4、レモン汁 小さじ 2）
塩 …… 適量
パプリカ …… 小さじ 2
粒マスタード …… 大さじ 1

《トッピング》
赤ピーマン、茹でたエビ、ゆで卵など

作り方

❶ 大きめの鍋に、よく洗ったジャガイモを丸ごと入れて、水から茹でる。途中で卵も入れ、10分茹でたら取り出して水に取る。
❷ ジャガイモが芯まで柔らかくなったら鍋から出して皮をむき、ボウルに入れて潰す。
❸ 刻んだゆで卵、ツナ、スライスしたオリーブ、マヨネーズ、粒マスタード、パプリカなどを加えていく。
❹ よく混ぜ合わせ、味を見て塩、オリーブオイルなどで味を調える。
❺ 皿に移し、長方形、楕円形、円形など好きな形で2cmから3cmの厚さに滑らかに形作る。表面にたっぷりマヨネーズを塗り、好みの具材で飾り付ける。

＊食べる直前まで、冷蔵庫でよく冷やして。

留学無料サポート
入学手続代行

スペイン留学.jp
留学ガイド

スペインへ留学しよう！

¡Vamos a España!

留学準備の第一歩は、学校を探すことから始まります。
地方ごとに異なる特色を持った魅力溢れる国、スペイン♪
お気に入りの街が見つかれば、より充実した留学生活になることでしょう。
ここでは代表的な留学先をいくつか紹介していますが、
他にも多くの学校をご用意しております。

▶▶ご出発までの流れ

1. 留学カウンセリング、お見積り
「どの街にしよう?」「費用はどれくらい?」「何から準備すればいいの?」など、漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずはメールやお電話でお気軽にご相談下さい。
2. 具体的に学校、コース、滞在スタイルなどのプログラムが決まれば、留学手続代行申込書を提出
3. 入学手続き開始
4. 航空券や保険、国際キャッシュカードなどの情報収集
5. ビザが必要な方は、申請に必要な書類を集め、在日スペイン大使館へ提出
90 日以内の留学なら学生ビザは不要ですが、91日以上の留学には学生ビザが必要です。短期学生ビザ（91日以上180日以内）、長期学生ビザ（181日以上）取得の場合は、ご出発の約2ヶ月前に時間に余裕を持って申請して下さい。
6. 留学費、海外送金手数料のご入金
7. 航空券、海外保険、学生ビザなど必要なものが揃えば、いよいよご出発！

<当サポートサービスの範囲>

・選択された学校への出願サポート
・サポート依頼を頂いた学校が手配するホームステイ、学生寮、共同アパートなどの宿泊先申込手続（混雑状況によりご希望に添えない場合がございますので、事前にご確認下さい）
・留学費用の海外送金
・空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行
※未成年の方は、必ず保護者の方に同意を頂いた上、お申込み下さい ※パスポートやビザの申請、航空券・海外保険の手配などは含まれませんので各自でご準備下さい　※海外送金手数料（6,500 円）はご負担となります

スペイン・中南米への留学は
スペイン留学.jp
www.spainryugaku.jp
info@spainryugaku.jp
4都市に相談窓口
東京 03-6869-6435　大阪 06-6346-5554
名古屋 052-766-6406　福岡 092-517-9535

カウンセリング・お見積もり・学校の入学手続きも無料で代行致します。お気軽にご相談下さい♪

① サラマンカ Salamanca

1218 年に創立されたスペイン最古の大学がある学生の街。カテドラル、大学、貝の家、マヨール広場など美しい建物が多く、旧市街全体が世界遺産に登録されています。

colegiodelibes

<コレヒオデリベス>

	2 週間あたり	24 週間あたり
一般集中スペイン語コース（20 時間 / 週）	360€ / 45,000 円	2.880€ / 360,000 円
ホームステイ（個人部屋 /2 食付）	294€ / 36,750 円	3.528€ / 441,000 円
共同アパート（個人部屋 / 食事なし）	220€ / 27,500 円	1.950€ / 243,750 円

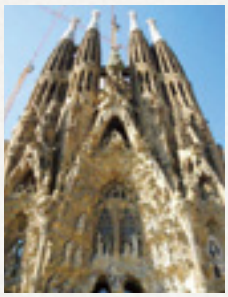
② サン・セバスティアン San Sebastián

バスク地方独自の文化が息づく街。「美食の都」として有名で、美味しい魚介類やピンチョスが堪能でき、数多くのバルが軒を連ねる通りはいつも賑わっています。

<ラクンサ・インターナショナルハウス・サン・セバスティアン>

	1 週間あたり	24 週間あたり
一般集中スペイン語コース（20 レッスン / 週）	175€ / 21,875 円	3.072€ / 384,000 円
ホームステイ（個人部屋 /2 食付）	241€ / 30,125 円	5.784€ / 723,000 円
共同アパート（個人部屋 / 食事なし）	128€ / 16,000 円	3.072€ / 384,000 円

③ バルセロナ Barcelona



スペインの中でも独自の歴史と文化を育んできたカタルーニャの都。ガウディやダリなど数多くの著名人を輩出。「芸術の街バルセロナ」には、今も街のあちこちに多くの芸術作品が残されています。

<インターナショナルハウス　バルセロナ>

	1 週間あたり	24 週間あたり
一般集中スペイン語コース（20 時間 / 週）	210€ / 26,250 円	3.840€ / 480,000 円
ホームステイ（個人部屋 /2 食付）	250€ / 31,250 円	5.760€ / 720,000 円
共同アパート（個人部屋 / 食事なし）	250€ / 31,250 円	5.520€ / 690,000 円

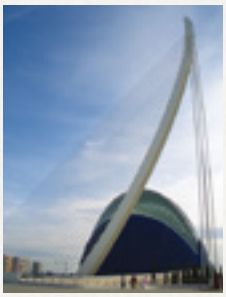
④ マドリード Madrid

プラド美術館や王宮など見所いっぱいの活気溢れるスペインの首都。休日にはショッピングやバル巡り、アート観賞を楽しむことができます。スペインの中心に位置するマドリードは他の都市へのアクセスも良好です。

<ドン•キホーテ　マドリード校>

	1 週間あたり	24 週間あたり
一般集中スペイン語コース（25 時間 / 週）	215€ / 26,875 円	4.560€ / 570,000 円
ホームステイ（個人部屋 /2 食付）	229€ / 28,625 円	5.496€ / 687,000 円
共同アパート（個人部屋 / 食事なし）	189€ / 23,625 円	3.628,8€ / 453,600 円

⑤ バレンシア Valencia



歴史的な伝統と近代建築が隣り合って共存するスペイン第 3 の都市。火祭りやトマト祭り、またパエリア発祥の地として有名です。地中海性の温暖な気候で過ごしやすく、ビーチリゾートとしても知られています。

<IH バレンシア>

	1 週間あたり	24 週間あたり
一般集中スペイン語コース（20 時間 / 週）	165€ / 20,625 円	3.360€ / 420,000 円
ホームステイ（個人部屋 /2 食付）	190€ / 23,750 円	4.560€ / 570,000 円
共同アパート（個人部屋 / 食事なし）	115€ / 14,375 円	2.760€ / 345,000 円

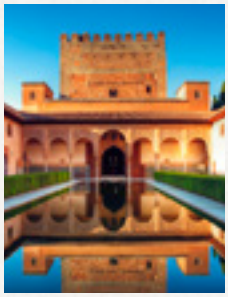
⑥ セビーリャ Sevilla

太陽と青い空が似合うスペイン南部、アンダルシア地方にある街。バスや電車で少し足を延ばすと、まるで絵ハガキのような白い村が点在し、陽気でのんびりとした空気を肌で感じることができます。

<クリック IH　セビーリャ校>

	1 週間あたり	24 週間あたり
一般集中スペイン語コース（20 時間 / 週）	190€ / 23,750 円	3.720€ / 465,000 円
ホームステイ（個人部屋 /2 食付）	200€ / 25,000 円	4.360€ / 545,000 円
共同アパート（個人部屋 / 食事なし）	130€ / 16,250 円	2.680€ / 335,000 円

⑦ グラナダ Granada



歴史遺産が数多く残る街グラナダ。中でも世界遺産登録されているアルハンブラ宮殿を訪れる観光客が後を絶ちません。その一方で、フラメンコやフラメンコギターが盛んな街でもあります。

<エンフォレックス　グラナダ校>

	1 週間あたり	24 週間あたり
一般集中スペイン語コース（20 時間 / 週）	169€ / 21,125 円	3.576€ / 447,000 円
ホームステイ（個人部屋 /2 食付）	149€ / 18,625 円	3.576€ / 447,000 円
共同アパート（個人部屋 / 食事なし）	129€ / 16,125 円	2.476,8€ / 309,600 円

※料金は2017年度の料金を参考にし作成しております（2017年5月現在 / 1€=125円で計算）。実際に渡航される際には料金が改訂されている事がありますので、予めご了承くださいませ。なお入学金や宿泊先斡旋料、夏期料金などが加算される学校もございますので、詳細につきましてはお問合せ下さい。

Vamos a

中南米でスペイン語を学ぼう

¡Latinoamérica!

スペイン語は中南米にある多くの国でも話されています。様々な歴史と文化、民族が混じり合う中南米。メキシコやペルーの遺跡、イグアスの滝やエンジェル・フォールの大自然など、中南米は見所いっぱいです。まずはどんな国があるのか、それぞれの文化や気候の違いを知り留学先を決めましょう。

中南米について

中南米、ラテンアメリカと言えば…世界遺産マチュピチュ、陽気な人々、美しいカリブの海…などがすぐに思い浮かびます。ラテンアメリカとは、中央、南アメリカの両地域を合わせて呼ばれています。スペインやポルトガルなどの文化を背景とする国々で、コロンブスの新大陸発見から 19 世紀までは主にスペインの植民地でした。その背景から現代でもスペイン語は中南米の約 20 の国々で公用語として使われています。5 億人を越える人々が暮らし、自然、民族、文化が魅力の中南米は、それぞれの国や地域ごとに豊かな個性をもち、多くの観光客を惹きつけます。

日本からは遠いため、なかなか訪れる機会がない国々でしたが、最近では若者のバックパッカーからパッケージツアーを利用したシニア世代まで、多くの日本人が訪れる地域へと変わってきています。

メキシコってどんな国？

México メキシコを知ろう！

首都はメキシコシティで、北アメリカ南部に位置する連邦共和制国家。北にアメリカ合衆国、南東にグアテマラ、ベリーズと国境を接し、西は太平洋、東はメキシコ湾とカリブ海に面しています。スペイン語圏において最も人口の多い国で、マヤやアステカの遺跡など歴史的な見所がたくさんあります。人口の60%がメスティソ（欧州系と先住民の混血）で、スペインからもたらされた欧州文化と先住民文化が融合し、独自の文化を形成しています。

面積	1,964,375 km²	人口	約 122,330,000 人
平均気温（首都）	雨季（8 月）：29℃ 乾季（1 月）：14℃		

Turismo

↓ カラベラ

現地のショップでたくさん売られている骸骨グッズ。11 月 1 日の死者の日にはカラフルなカラベラ（メキシカンスカル）が街中に飾られます。死者のために明るく盛大にお祝いする、陽気な死生観もこの国の魅力。

←テキーラ

言わずと知れたメキシコ生まれの蒸留酒。塩やライムと一緒にストレートであおるのが王道ですが、飲み過ぎにはくれぐれもご注意を。

タコス→

トルティーヤの皮で肉や魚などの具を挟み、ライム汁やサルサをかけていただきます。

↓ チチェン・イッツァ

マヤ文明の古代都市遺跡。代表的な建物「エル・カスティーヨ」（ピラミッド）は、春分と秋分の日没時に最高神ククルカンが降臨する現象で知られています。天文台、戦士の神殿、命懸けのボールゲームが行われていた球戯場など、この文明の世界観に触れることができる、さまざまな建築物が残されています。

セノーテ ↑

ユカタン半島のジャングルにある、非常に透明度の高い泉。眩しい光と碧い水の輝きは、この世のものとは思えないほどの美しさ。

メキシコの提携校 Escuelas en México

メキシコにある代表的な語学学校を紹介。この他にもラテンアメリカ各国にたくさん語学学校がありますので、お気軽にご相談下さい。

donQuijote スペイン語コース

ドン・キホーテ

- グアナフアト校
- オアハカ校
- プラヤ・デル・カルメン校
- プエルト・バジャルタ校

International House Riviera Maya

インターナショナルハウス

- リビエラ・マジャ校（プラヤ・デル・カルメン）

スペイン語留学ガイド配布中！
留学初日に使える
スペイン語講座付き♪

spain ryugaku 留学.jp

スペイン・中南米への留学は
スペイン留学.jp

スペイン留学.jpでは、ご希望に合った学校選びや、プランの作成など幅広くお手伝いしております。漠然とイメージされている留学プランや、目的・期間・ご予算など、まずはお気軽にご相談下さい。

https://www.facebook.com/spainryugaku.jp
「いいね！」をクリックして今すぐスペイン留学の最新情報を入手しよう！

@spainryugaku
ツイッターでも留学情報を配信しています！

【資料請求・お問合せはこちらから】
www.spainryugaku.jp
info@spainryugaku.jp

4都市に相談窓口
東京 03-6869-6435　大阪 06-6346-5554
名古屋 052-766-6406　福岡 092-517-9535

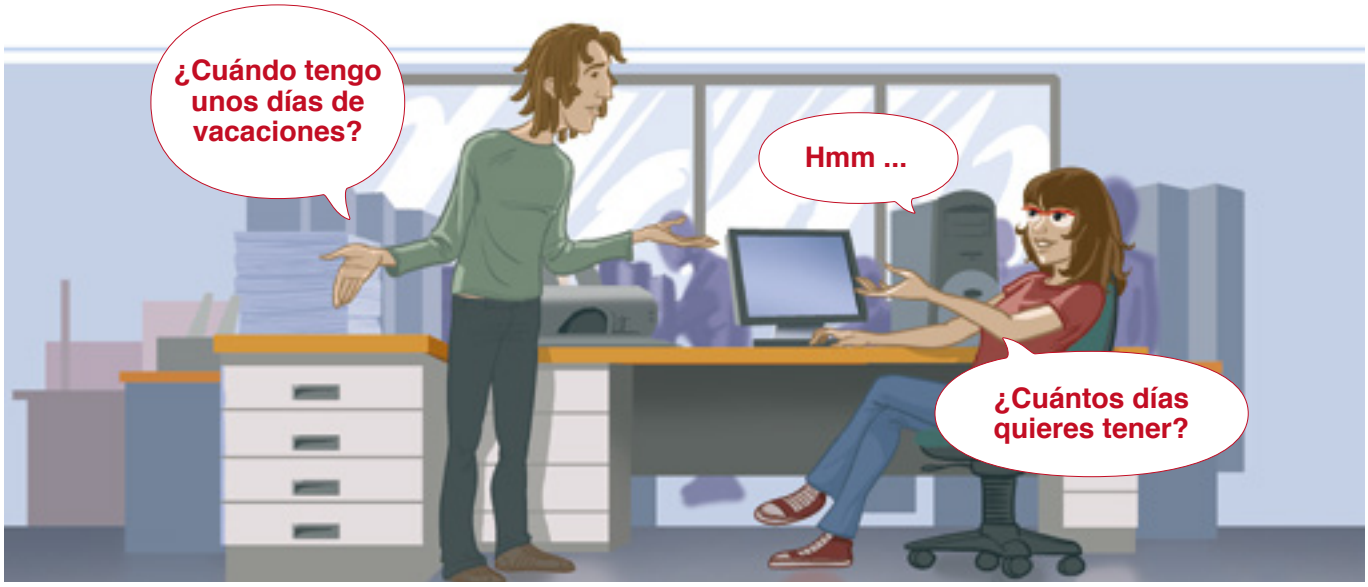
有限会社 ADELANTE

¡Vamos a hablar español!

スペイン語で話そう

Lección 11

～はいつですか？ / ～間ですか？
¿Cuándo ...?
¿Cuántos / Cuántas ...?



予定の尋ね方：「～はいつですか？」「～間ですか？」

¡Hola! みなさん、こんにちは。今回は疑問詞「Cuándo」と「Cuántos」を使って予定の尋ね方を学びましょう。
「Cuántos / Cuántas」は「いくつの / どれくらいの」と数・量を尋ねる疑問詞です。
例えば「何日間ですか？」と尋ねたいときは、「日」を意味する単語「días」を加えて「Cuántos días」と言います。

予定の尋ね方①「～はいつですか？」

¿Cuándo ...? ～はいつですか？

例）¿Cuándo es tu cumpleaños? きみの誕生日はいつですか？
El 16 de julio. 7月16日です。

予定の尋ね方②「～間ですか？」

¿Cuántos	días meses años	...?	何日間 何ヶ月間 何年間	～ですか？
¿Cuántas	horas semanas	...?	何時間 何週間	～ですか？

例）¿Cuántas horas trabajáis al día? きみたちは1日に何時間働きますか？
Trabajamos 8 horas. 8時間働きます。

＋αで覚えよう！その１【曜日】

- 月曜日 lunes
- 火曜日 martes
- 水曜日 miércoles
- 木曜日 jueves
- 金曜日 viernes
- 土曜日 sábado
- 日曜日 domingo

週末 fin de semana

＋αで覚えよう！その２【月】

- １月 enero
- ２月 febrero
- ３月 marzo
- ４月 abril
- ５月 mayo
- ６月 junio
- ７月 julio
- ８月 agosto
- ９月 septiembre
- 10月 octubre
- 11月 noviembre
- 12月 diciembre

スペイン語教室 ADELANTE
・一般・旅行・商業・DELE 検定対策・プライベートなど目的やペースに合わせて選べるコース
・ネイティブ講師だからプチ留学気分で自然なスペイン語がマスターできる！
・振替ができるので忙しくても安心！
・月謝払い OK！
無料体験レッスン 教室見学など 随時受付中！
スペイン語教室 ADELANTE
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2 F
TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122 www.adelante.jp

AVANZAMOS A1
● 日本の学習事情を考慮して作られた西語で西語を学ぶ入門者向けテキスト
● 個人授業 / グループ授業 使用可
● 充実の 104P（オールカラー）・CD 付
● ¥1,944（税込
アデランテショップで好評販売中！
www.adelanteshop.jp

clic
Centro de Lenguas e Intercambio Cultural

International House
Sevilla y Cádiz

スペインのエッセンスが詰まった セビリアとカディスで語学留学

- 語学教育と講師養成コース等で世界的に定評のある**International House**メンバー校
- **1**週間の短期から長期までご希望のコース期間が選択可能
- **DELE**試験開催校（年**3**回）として安心と信頼の**DELE**対策コース
- 現地日本人スタッフによる安心のサポート

Centro Acreditado

CLIC International House Sevilla y Cadiz
クリック・インターナショナルハウス・セビリア＆カディス
Email: japan@clic.es（日本語でどうぞ）
www.clic.es/jp（日本語サイト）

IALC

使えるスペイン語を学ぼう

Español práctico vol.5

旅行や留学で使える実践的なスペイン語を学ぶコーナー。
第５回はサッカーのチケットです。
サッカーに関する単語もチェックしましょう！

サッカーのチケット

スペインで本場の試合を観戦！チケットに記載されている情報を確認してみましょう。

※LFP：Liga de Fútbol Profesional（スペインプロリーグ機構）

1. スタジアム名
2. シーズン（2017-2018）
3. 節（第 1 節〜第 38 節）
4. 対戦チーム
5. 座席の位置付け
6. 入場ゾーン
7. 座席の区域
8. 座席の列
9. 座席番号
10. スタジアム外からの入場口
11. チケット料金
12. 「付加価値税加算済」

5 〜 10 は座席に辿り着くまでの案内です。スタジアムの場内マップもチェックして、自分の座席の位置を確認しましょう！

vocabulario

サッカーに関する単語を学びましょう。
用語がわかるとスペインサッカーがさらに楽しめますね。

entrada	チケット	descanso	ハーフタイム
anfiteatro	観客席	primera división	1 部リーグ
campo de fútbol	サッカー場	segunda división	2 部リーグ
casa	ホーム	Copa Mundial	ワールドカップ
fuera	アウェイ	aficionado	ファン
tarjeta amarilla	イエローカード	socio	クラブ会員
tarjeta roja	レッドカード	peña	後援会

LaLiga

スペインのプロサッカーリーグ「ラ・リーガ」。日本では「リーガ・エスパニョーラ」とも呼ばれます。1 部リーグにはトップ 20 チームが所属し、レアル・マドリードは歴代最多の優勝回数を誇る強豪チーム。2 番手は最大ライバル FC バルセロナ。特にこの両チームの対戦は「クラシコ（伝統の一戦）」と称され、世界中が注目します。シーズン開幕は 8 月で、1 シーズン毎に全 38 節・380 試合（1 節ごとに 10 試合）が行われます。

※実際のチケットとは情報が異なる・変更している場合があります

donQuijote
スペイン語コース

1986年創立

スペイン語を生きよう
スペイン　ラテンアメリカ

年間3万5千人・85ヶ国からの留学生が受講中（アジアからの留学生は10%以下）。

スペイン・メキシコ・コスタリカ・エクアドル・ラテンアメリカ諸国計32都市の校舎にて受講頂けます。

多彩なスペイン語コースから、あなたのニーズにあったコースをチョイス。

徹底した少人数制（最大8名・平均4名）。

現地日本人スタッフのきめ細やかなサポート。

ヘッドオフィス　Tel.: +34 91 594 37 76　|　keiji.tanimura@donquijote.org

アリカンテ/バルセロナ/グラナダ/マドリッド/マラガ/マルベーリャ/サラマンカ/セビリア/テネリフェ/バレンシア（スペイン）
アルゼンチン/ボリビア/チリ/コロンビア/コスタリカ/キューバ/ドミニカ共和国/エクアドル/グァテマラ/メキシコ/ペルー（ラテンアメリカ）

Instituto Cervantes Centro Acreditado

www.donQuijote.org/jp

ideal education group

スペイン語講座 Lección 29

今回のテーマ

様態の接続詞como等の表現について

Sobre la conjución modal *como* y otras expresiones

前号では状況補語節(Cláusula Circunstancial)の1つである「時の節」(cuando～が代表的)を扱いましたが，今号では引き続き状況補語節の一種「様態の属節」(Cláusula Modal)をみていきます。

様態の従属詞節とは「～のように」，「～の状態で」などを意味するものです。文法的には節全体が主節中において様態の副詞と同じように働きます(「así そのように」で置き換えができます)。1番基本的なのがcomo~で導かれるものです。comoの後の動詞が直説法になるか接続法になるかは場合によります。

Lo hago como me mandas.
君が命令するようにする。
Lo haré como me mandes.
君が命令するようにするよ。

前者の例文では既に命令がされているか，習慣を表していて「いつも君が命令するように」の意味です。後者の接続法mandesを使った例文では，まだ今の時点で命令はなされていなくて，命令内容は「未確定」というわけです。

文法的に言うと上の様態のcomoは接続詞ですが，実は関係副詞とも密接な関係があります。例えば，

Siempre me ha gustado la manera como juega ese futbolista.
そのサッカー選手のプレーの仕方がいつも好きだった。

この例文ではcomoは関係副詞です。先行詞としてのmanera(他にmodo, forma, etc.)を受けています。しかし，以下のようにla maneraを省略しても意味はほとんど変わりません。むしろ自然な表現です。

Siempre me ha gustado como juega ese futbolista.
そのサッカー選手のプレーの仕方がいつも好きだった。(同上)

さて，comoがtalやasíと呼応し“tal…como”，“así…como”と相関構文として使われることもあります。いわゆる「様態の比較構文」です。

Nuestro tren llegó con 20 minutos de retraso tal como estaba previsto ya de antemano.
我々の電車は，前もって予想されていた通り20分遅れて到着した。

この例文ではtalを取っても文として成り立ちますが，talがあった方が少し強調的な感じがするようです。

続いて，comoが条件を導く接続詞siと組み合わされて，「まるで～のように」を意味する“como si～”の用法をみていきましょう。

Ella se comporta como si fuera la reina.
彼女は女王様であるかのようにふるまう。

como siの後は接続法過去になります。なぜでしょうか。この構文は次のように分析できます。

Ella se comporta como (se comportaría) si fuera la reina.
彼女はもし女王様であったならふるまったであろうかのようにふるまう。

comportaríaと過去未来になっているのは事実に反する仮定の用法です。この部分は時制こそ異なるもののすぐ前のcomportaの繰り返しになるので省略されるわけです。結果として「como si + 接続法過去」という反実仮想の構文になります。

como siの後が過去の事実に反する仮定を表すこともあります。その場合は「接続法過去完了」が使われます。先ほどの例を過去にしてみます。

Ella se comportaba como si hubiera sido la reina.
彼女は女王様であったかのようにふるまっていた。

ところで，comoは本来，様態の接続詞(～のように)ですが，派生的に様々な意味で使われるようになっています。代表的なのが「原因のcomo」(～だから)や「条件のcomo」(もし～なら)です。これらは今後「原因節」や「条件節」を扱ったときに触れる予定ですが，簡単にまとめておきましょう。

●接続詞としての本来の用法：様態(～のように)
　接続詞としての派生的用法：
　「como＋接続法」条件(～すると)，「como＋直説法」理由(～ので)
●関係詞として様態を意味する名詞を受けて：
　“modo (manera, forma, etc.)…como”
　関係詞として比較構文で：
　“tan(to)…como”，“tal…como”，“así…como”
●その他：資格(～として)，概数(約～)

非常に広範な用法を持つ語だとわかりますね。

それでは，como以外の接続詞もみていきます。まずはsegún, conforme「～にしたがって，～に応じて」の例から挙げます。

He manejado el ordenador según indica el manual, pero no funciona.
マニュアルにしたがってパソコンを操作したが作動しない。

接続詞は通常，強勢のない語ですが，segúnは強勢あることに注意しましょう。語源的に「続く」の過去分詞から来ていて接続詞になりきっていないからです(segundo「続いた，2番目の」→según「～にしたがって」)。

segúnとconformeは，2つの動作の同時並行関係を表すこともできます。この意味で“a medida que～”とほぼ同じ意味です。

Los asistentes se iban sentando conforme entraban en la Aula Magna.
出席者たちは講堂に入るにしたがって着席していった。

さて次は，「～と同じように」を意味する“(al) igual que～”,“del mismo modo que～”の例文を挙げてみます。

Carmen habla igual que hablaba su madre.
カルメンはその母と同じように話す。
Del mismo modo que ocurrió en otros países avanzados China va a enfrentarse al problema del envejecimiento de la población.
他の先進国と同じく中国は高齢化の問題に直面するだろう。

様態節の用法，とりわけ多様なcomoの用法をマスターすることはスペイン語学習者にとってキモではないでしょうか。¡Hasta la vista!

仲井 邦佳 なかいくによし / Kuniyoshi Nakai
立命館大学産業社会学部教授。専門はスペイン語学。著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語―文法と演習―』(共著、同学社)などがある。

International House San Sebastian

LACUNZA

サン・セバスティアンでスペイン語と文化を学ぼう！

ラクンサ・インターナショナル・ハウスは，スペイン北部
バスク地方のサン・セバスティアンにあります。

スペインとバスク，伝統と革新。
2つの文化が融合するサン・セバスティアンは，食文化で世界的に有名な街です。

サン・セバスティアンで，スペイン語と文化を学び，新しい味の体験を！

+25 年の実績

独自の文化

お問い合わせは

Lacunza International House
Camino de Mundaiz 8,
Entlo D, 20012
San Sebastián,
España

+34 943.32.66.80
info@lacunza.com
www.lacunza.com

lacunza.ihsansebastian
lacunzaih
lacunzaihss

D.E.L.E.試験準備コース4週間

インターナショナル・ハウス提携校

Diplomas de Español como Lengua Extranjera

Centro Acreditado

fedele Federación de Escuelas de Español Lengua Extranjera

IALC International Association of Language Centres

ビジネス スペイン語

NIVEL 中級(B2)以上

Vol.10

今回は目先を変え、企業の毎期の事業運営の業績を数字で表した財務諸表のひとつであるバランスシート(B/S:貸借対照表)から、勘定項目として記載されているいくつかの経理用語を使った表現を学んでみましょう。少々難解かもしれませんが、日本語の専門用語が理解しにくければ、勉学のためご自身で調べ理解を深めてください。

伊藤 嘉太郎先生
Yoshitaro Ito
長年の海外経験を活かし、大学でのビジネススペイン語非常勤講師などを歴任。

☑ **スペイン語も日本語も専門用語は定形的な表現なのでそのまま覚えてしまうことです。**

ejemplo 1

El aumento en el valor de las cuentas por cobrar se debe a la morosidad de algún que otro cliente con problemas de liquidez.

売上債権の増加は、資金繰り問題を抱えた顧客数社の支払い遅延が原因である。

ejemplo 2

El cálculo del coste de las existencias se basa en el método "primera entrada-primera salida" (PEPS).

在庫の原価（コスト）計算は、"先入れ先出し"法に基づいている。

ejemplo 3

Los materiales obsoletos y de lento movimiento se han descargado del valor del inventario al cerrar el ejercicio fiscal.

陳腐化および動きの鈍い材料は、決算時棚卸金額から引き落し処分された。

ejemplo 4

El capital neto de trabajo equivale a las cuentas por cobrar más inventarios menos cuentas por pagar.

正味運転資金(運資)は、売上債権と棚卸を足して買掛金を差し引いた金額である。

ejemplo 5

El patrimonio neto es el valor total de los activos de la empresa, menos los pasivos, y también se le denomina el capital propio o de accionistas.

純資産は企業の総資産から負債を差し引いた金額で、自己資本または株主資本とも言う。

どうでしたか。スペイン語以前に経理の知識がないと理解できないところもあったかと思います。M&Aや合弁交渉などでは相手企業の財務諸表の精査が重要です。スペイン語の財務諸表を目にすることは頻繁にはないかと思いますが、知識として知っておくと役に立つことがあるかもしれません。次回も引き続き経理用語を使った文章表現を学ぶことにします。

ejemplo 1

1. las cuentas por cobrar：回収すべき勘定のことで売掛金とも言う。"deudores" と表記されることも。cuentas は勘定のこと。この表現の中にすでに "valor" のニュアンスが含まれている。
2. la morosidad：債務滞納の意。"cuentas morosas / malas"：不良債権(期日到来後も未回収の売掛金)。"reservas para cuentas malas / morosas"：貸倒引当金。
3. algún que otro cliente：いく人かの顧客 ＝ unos cuantos clientes
4. liquidez：流動性資産、手持ち現金・資金のこと。"falta de liquidez"：手持ち資金不足。

ejemplo 2

1. el cálculo del coste：商品や材料の原価計算。中南米では"costo"が使われるケースが多い。
2. las existencias：「在庫」の意味の場合は複数となる。"inventario" も在庫の意味だが、むしろ「棚卸」の表現でよく使われる。
3. primera entrada-primera salida：在庫の評価方法のひとつで、先に仕入れたものを先に出庫するやり方。在庫管理の基本。英語では "first in first out" (FIFO)。

ejemplo 3

1. los materiales obsoletos：古くて使い物にならぬ材料。"mercancía obsoleta"：陳腐化商品 ⇒ 在庫になって売れない商品、商品価値が大幅に下がり通常販売できない商品。
2. de lento movimiento：在庫となってほとんど動かないことを言う。
3. se ha descargado de…：～から引き落とされた。
4. el valor del inventario：棚卸金額。
5. al cerrar el ejercicio fiscal：会計(事業)年度を締める際 ⇒ 決算時。

ejemplo 4

1. el capital de trabajo：運転資金 ⇒ 企業が事業活動をする上で必要とする資金のこと。
2. más…menos…：ここでは足す…引く…のことで、この文章を式にすると、「正味運転資金＝売上債権＋棚卸(在庫)－買掛金」となる。
3. cuentas por pagar: 買掛金 ⇒ 仕入れや買い入れで支払うべき勘定のこと、支払債務とも言う。"acreedores" と表記されることも。

ejemplo 5

1. el patrimonio neto："patrimonio líquido" とも表現される。patrimonioは資産、財産のこと。 ちなみに、"patrimonio mundial"は世界遺産の意。
2. el valor total de los activos: 流動資産(activos corrientes)と固定資産(activos fijos) を足した資産合計(金額)のこと。
3. los pasivos：activos に対応するもので負債の意。これにも "pasivos corrientes"（流動負債）と "pasivos fijos"（固定負債）がある。通常の "préstamo bancario"（銀行借入）などは流動負債に含まれる。
4. el capital propio：自己資本のことで、これに対応するのが "capital ajeno"（他人資本:銀行借入や社債など返済義務のあるお金のこと）。
5. accionistas：acciones(株式)を保有している人、株主。

もっと詳しく知りたい方は…
中級ビジネス スペイン語特別講座

【対象者】
現役のビジネスパーソンでビジネススペイン語力を高めたい方、
将来スペイン語を使った仕事に就く予定・計画のある方、
スペイン語のステップアップとして実践的なスペイン語学習を求める方

【講座内容】
ビジネス関連情報の読み取り方、顧客への自社業務・担当業務の説明、
E-mail による社内外とのコミュニケーション等

【講座概要】
計 6 講座（各 90 分）
定員：4 ～ 5 名の少数クラス
（最小実施人数 3 名）
講師：伊藤嘉太郎
場所：スペイン語教室 ADELANTE
アクセス：JR 大阪桜橋口から徒歩 5 分

スペイン語 ADELANTE
www.adelante.jp

【お問合せ】スペイン語教室ADELANTE 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122 www.adelante.jp

バルセロナで質の高い スペイン語コースを

International House Barcelona

スペイン語を学びながら、
観光をしたり友達を作ったりしませんか。

質の高い教師陣のもと実生活にすぐに活かせるコミュニケーション中心の楽しい授業を受けてみませんか。

世界中から集まる生徒達

バルセロナの中心地

お問い合わせ
日本人カウンセラー
佐藤朱美: asato@bcn.ihes.com

www.ihes.com/bcn

Centro Acreditado

fedele

ACCREDITED Eaquals Excellence in Language Education

右記の学校でも
スペイン語コースを
受けることができます。

PALMA MALLORCA
スペイン

BOGOTÁ
コロンビア

PLAYA DEL CARMEN
リヴィエラマヤ
メキシコ

International House VIVA Group
www.viva-group.info

ピアニスト・下山静香の

音楽の時間

ガルシア・ロルカと音楽
その4

フランシス・プーランクとワンダ・ランドフスカ

ロルカへのオマージュ1

これまで、音楽を愛し、ピアノを弾き、スペイン民謡を愛した「音楽家」としてのロルカをみてきた。詩集や戯曲の成功によって、その才能を広く認められるようになったロルカだが、1936年、みずからに突然の悲劇が訪れる。

米西戦争(1898年)に大敗したこともあり、20世紀初頭からスペインの内政は不安定だった。以前当エッセイにも登場した、芸術を愛し芸術家を篤く庇護した国王アルフォンソ13世は、その後どうなったか？　というと、1931年に国外亡命の憂き目をみている。国王は、混迷する国内情勢を鎮めるべく、クーデターを起こしたプリモ・デ・リベラ将軍を首相に登用し(1923年)、軍事独裁政権下で王権を守ろうとするものの、結局リベラ将軍は失脚。その後の統一地方議会選挙で共和派支持勢力が圧勝し、1931年、共和政府が樹立されたのである。

「第二共和政」と呼ばれるこの時代には、スペインの民衆文化を再興しようという機運も活発になり、ロルカが結成した学生移動劇団「バラッカ」も、政府に支持されて補助金を得ている。

しかし、社会は右に左に振れ動いた。1936年2月の選挙では、再び左派が総勝利して人民戦線政府が成立するが、政治的混乱は続き、同年7月17日、フランシスコ・フランコ将軍率いる右派勢力が軍事蜂起。スペイン内戦の勃発である。

ロルカの故郷グラナダでは、内戦前夜から、スペイン・ファシズムを掲げるファランヘ党員とその支持者たちが勢力を広げていた。ロルカは“直接的に”政治にかかわるタイプではなかったが、公での言動で共和派支持の立場を明確にしており、ファランヘ党員から目をつけられていた。また、ロルカのセクシュアリティも、彼らの気に食わなかった。極右とその支援勢力にとって、同性愛者は唾棄すべき対象だったのである。

しかしロルカは、よりによって不穏な空気が濃厚になってきていた7月に、グラナダに赴いてしまう。「行ったら捕まる」との友人の警告を聞かずに、そして、ロルカ自身も危険を感じとっていたにもかかわらず……。

果せるかな、ロルカがグラナダに到着したわずか3日後に、クーデターは起きた。

その後のロルカは、実家の農園から出ずにひっそりと滞在していたが、ある事件をきっかけにフランコ派に居場所が知られてしまう。友人ルイス・ロサレスに対策を相談したロルカは、マヌエル・デ・ファリャの家に行くことを提案されている(ちなみに、ロサレスはファランヘ党員だったが、ロルカは政治的立場に関わらず「対・人間」の付き合いをしており、彼ともよき友人だった)。しかし、ロルカはこの提案に乗り気ではなかった。この頃ファリャとは疎遠になってしまっていたのと、自分が心から尊敬する音楽家に変わりはないファリャに迷惑はかけられない、という思いもあっただろう。

結局、ロルカはロサレスの家で保護されることになる。ロサレス一家は、グラナダ・ファランヘ党内の有力者だったため、さすがにそこには手を出せないだろうとの判断だった。しかし、ロサレスの留守中に、元CEDA(スペイン独立右派連合)代議士のルイス・アロンソ率いる一隊がやってきて、ロルカは連行されてしまう。

ロルカが拘束されたと知ったロサレスやファリャは、彼をなんとか助けようと奔走し有力者にかけ合ったが、無情な運命を変えることはできなかったのだった。

8月19日の早朝、監禁場所から連れ出されたロルカは、グラナダ近郊のオリーブ畑で銃殺される。享年38歳、その遺骨はいまだ発見に至っていない。

それから2年7ヶ月後の1939年3月、悲惨を極めた内戦は、叛乱軍側の勝利で終結。その後長らく、フランコ独裁下のスペイン国内では、ロルカの名は禁句に等しかったが、国際的には、「ロルカ」はスペイン内戦の悲劇を象徴するコードのひとつとなった。そして、現在に至るまで、様々なアーティストによってロルカへのオマージュ的な作品が創作されている。

その中からまず、私が実際の演奏を通じて個人的に思い入れのある、フランシス・プーランク作曲《ヴァイオリンとピアノのためのソナタ》をご紹介しよう。

プーランクは、「フランス六人組」と呼ばれる作曲家の1人で、パリでスペイン音楽ブームが起きていた頃に青年期を送っている。15歳からは、スペイン出身の名ピアニストで、ドビュッシーやラヴェルなど名だたる作曲家の新作初演を行っていたリカルド・ビニェスにピアノを師事し、大きな影響を受けている。

ロルカとプーランクは同世代。たった7ヶ月違いなので、同い年と言ってしまっても差し支えないほどである。プーランクは、「学生館」でイベントを行ったこともあるが、2人の間に親しい交流があったかどうかは今のところ不明のようだ。いずれにせよ、プーランクにとってロルカは、アポリネールやエリュアールと同じくらい重要で、好きな詩人だった。スペイン――それもアンダルシアという、独特な風土が抱えるものをその作品に投影させたロルカと、洗練されたパリに生まれ育ったプーランクとの間には、目立った共通項はないようにも思えるが、実はそんなことはない。芸術家としての方向性、作品や人生に影を落とす「死」の存在、政治に対する姿勢、そしてセクシュアリティと、2人を結ぶキーワードはいくつも挙げることができるのである。プーランクがこれらの類似を認識していたかどうかはわからないが……。

プーランクは、ロルカ銃殺から5日後の手紙でスペイン内戦に触れ、かの地の友人たちを思って心を痛めている。この時点で、ロルカが亡くなった噂が彼の耳に入っていた否かはともかく、隣国での内戦がプーランクにも大きなショックを与えたことは間違いない。

さて、プーランクが、ジネット・ヌヴー（フランスの天才女流ヴァイオリニスト）の依頼で《ヴァイオリンとピアノのためのソナタ》を作曲したのは、1942年から翌年にかけてのこと。第二次世界大戦の只中で、パリがナチスドイツの占領下にあった時期である。

弦楽器よりも管楽器、特に木管楽器を好んでいたプーランクが、弦楽器のためのまとまった作品を完成させることができたのは、ヌヴーからの依頼という理由に加えて、「ロルカに捧げたい」という強い思いがあったからかもしれない。

その思いは、どのようにこのソナタに現れているのだろうか。それはまた、次号にて。

下山静香　しもやましずか / Shizuka Shimoyama

桐朋学園大学卒。文化庁派遣芸術家在外研修員としてスペインへ渡り、マドリード、バルセロナで研鑽。スペイン各地に招かれリサイタルを行い、「スペインの心を持つピアニスト」と賞される。ラジオ、テレビ番組に多数出演、これまでに8枚のCDをリリース。共編著書1冊、共著10冊、翻訳書1冊、校訂楽譜2冊がある。現在、スペイン・中南米音楽を含む多彩なレパートリーをもつピアニストとして活発な演奏活動を展開。またクラシック界にあって、翻訳・執筆・講演とマルチにこなすユニークな存在として注目を浴びている。桐朋学園大学、東京大学 各非常勤講師、日本スペインピアノ音楽学会理事。
Official Web Site　http://www.h7.dion.ne.jp/~shizupf
裸足のピアニスト・下山静香のブログ　http://ameblo.jp/shizukamusica

Información

★ 7/27（木）　エンリケ・グラナドス生誕150年 ～“最後のロマン派”知られざるアンサンブルの世界～（豊洲シビックセンターホール）日本スペインピアノ音楽学会主催（ミューズ・グラシア共催）
★ 8/24（木）　下山静香 魅惑のクラシック ～夏の夜に贈り物～ vol.8（桐生市市民文化会館 小ホール）
★ 8/29（火）　世田谷区シニアスクール「ブラジル ～ サウダージが宿る多様な音楽」〈会員のみ〉（成城ホール）
★ 10/28（土）　11/2公演のプレ・イベント「Shizuka presents スペイン・フェス」（会場未定）
★ 11/2（木）　下山静香の世界 ～日本・スペイン 遥かなる旅路～〔仮〕（豊洲シビックセンターホール）ゲスト：尾上墨雪（日本舞踊尾上流家元）

2014.03.08 Día internacional de la Mujer
国際女性デー：カルメ・リエラ&ロサ・モンテロ

Director del Instituto Cervantes de Tokio

Antonio Gil de Carrasco

Mis cinco años en el país del sol naciente: Japón, un país maravilloso

日出づる国での5年―魅惑の国、日本―

El tiempo vuela y me parece increíble recordar que mi estancia en Japón está llegando a su fin. Aún recuerdo con cierta melancolía como en septiembre de 2012 cuando me despedía de mi hija en Madrid con destino a mi nuevo destino en Tokio (Japón) y Seúl (Corea del Sur), me asaltaron pensamientos negativos como si me fuera al planeta Marte y no supiera cuándo iba a regresar, ni cuándo iba a volver a ver mi país. Yo, que he sido desde muy joven un viajero empedernido, me asustaba por primera vez ante el desafío de trabajar en un país tan lejano y distinto a los que había trabajado hasta la fecha: Reino Unido, Egipto, Israel, Siria, Líbano y Turquía. No sabía entonces las maravillosas aventuras que iba a vivir en el país del Sol Naciente.

Sin embargo, tras mis miedos iniciales al llegar a Tokio, una de las megalópolis más grande de la Tierra con 13,64 millones de habitantes, me encontré con un ambiente totalmente distinto al que suponía que encontraría. Una ciudad silenciosa, sin ningún embotellamiento de tráfico, donde la gente pulula como robots sin levantar la voz, mirando al infinito y todos ellos concentrados en su trabajo o sus asuntos familiares y con una tecnología apabullante que hace que estés conectado en segundos a cualquier parte del mundo.

La estética era totalmente distinta a lo que estaba acostumbrado a ver, tanto a nivel de edificios como a nivel de rasgos físicos de las personas, para mí inexpresivas, prácticamente iguales y que estaba seguro que me causarían problemas de identificación que con el tiempo he podido superar. Y ahora soy capaz de distinguir no solo los rasgos diferenciadores de las personas japonesas, sino que también soy capaz de distinguir cuando son chinos o coreanos.

Desde el principio quedé impresionado por el carácter del japonés y su sentido del respeto, en una sociedad especialmente diseñada para no molestar al vecino y esto tiene su lógica. Japón tiene las tres cuartas partes de extensión de España y sin embargo casi triplica su población, por lo tanto las pautas de conducta de sus ciudadanos tienen que ajustarse para poder convivir feliz y pacíficamente en una superficie relativamente pequeña para esa gran población.

時間は本当に飛ぶように過ぎてゆく。今、私の日本での任期は終わりを迎えようとしているが、それを信じられないでいる。今でも2012年の9月に、新たな赴任先である東京（日本）・ソウル（韓国）へ向かうためマドリードで娘に別れを告げた当時のことを思い出すと、まるで火星のように遠い地へ行き、いつまた故郷の土を踏めるかもわからない、あの時の沈んだ想いが蘇る。若い頃から旅好きな私だが、それまで働いたことのある英国、エジプト、イスラエル、シリア、レバノン、トルコなどとは違い、ここまで遠く、異郷の国で仕事をすることに、これまで抱いたこともない恐怖を感じていた。当時の私には、その後私が日出づる国で体験することになる素晴らしい冒険の数々を、知る術もなかった。

しかし、人口1364万人という地球最大級のメガロポリス、東京に着いた当時の恐れとは裏腹に、想定とは全く違う状況を目の当たりにすることになった。宙を見つめ、声も出さず、それぞれが自分の仕事や家族に集中しているロボットのような人々で溢れ、交通渋滞のない静かな町、そして数秒もすれば世界のどこにでも繋がる圧倒的な技術…

美的感覚は、私が慣れ親しんできたものとは完全に異なっていた。建物の高さや人々の顔立ちが私には無表情でみな同じに映り、見分けるのに苦労するだろうと確信していた。しかしながら時とともにそれも克服し、今では日本人の顔を区別するだけではなく、中国人や韓国人までも区別できるようになった。

当初から私は日本人の気質とその敬意の篭った態度に感動していた。日本の社会では、周囲の人に迷惑をかけないことに特に注意を払っており、それは理に適っている。日本の国土面積はスペインの4分の3であるにもかかわらず、人口はスペインのほぼ3倍である。従って、この人口密度の高い国で人々が平和に暮らすには、国民の行動規準を調整しなければならないということなのだ。

Nuestros contratiempos iniciales comenzaron al no entender los letreros de las viandas para comer, escritos en Kanjis chinos o hiraganas y katakanas japoneses, que en aquellos primeros meses me parecían como jeroglíficos y que aún hoy en el caso de los kanjis me cuesta un enorme trabajo entenderlos, aunque con el paso del tiempo fui superando estos contratiempos iniciales.Por otro lado, el vivir en el piso 33 de Prudential Tower, una torre gigantesca en el corazón de Tokio, con unas vistas espectaculares sobre la ciudad, hacía que por las noches me relajase y disfrutara de esas magníficas vistas, como si estuviera paseando en una nave espacial. Todo fue maravilloso desde el principio.

Los primeros meses de estancia transcurrieron a una velocidad vertiginosa, entre el trabajo y proyectos culturales y académicos que surgían constantemente en un país donde todo está en ebullición, donde la cultura tiene un papel muy destacado, donde nada es imposible; lo cual hizo que a veces ni, siquiera me enterara de que estaba tan lejos de mi país. Eso sí recuerdo con cariño y humor que me pasé los primeros meses haciendo reverencias a todo el que me presentaban, habiendo momentos que la situación me parecía cómica y que, sin embargo, con el paso del tiempo lo consideré como algo normal.

En cuanto a mi trabajo, me di cuenta inmediatamente que en cuanto a la enseñanza del español, las motivaciones de los japoneses para aprender nuestra lengua eran distintas a las de los ciudadanos de otros países donde presté servicio. Japón está muy lejos de cualquier país donde el español es lengua oficial, por lo que no es un requisito importante para obtener un mejor trabajo, por ello descubrí que las motivaciones de nuestro público para aprender nuestra lengua, eran eminentemente socio culturales: que les guste la historia de un determinado país, un determinado tipo de baile o música hispana, un determinado equipo de fútbol, o la gastronomía hispano americana. Si a esto añadimos las distancias enormes que hay en Tokio y el tiempo acumulado en transportes, nos da como resultado que los japoneses prefieren cursos de hora y media solo una vez a la semana, lo que implica un aprendizaje más lento, si lo comparamos con los cursos a los que estaba acostumbrado en Oriente Medio, de tres horas, tres veces por semana.

En el plano cultural traté con mi equipo de vertebrar nuestra actividad en torno a tres ejes fundamentales: Hispanismo, embajadas latinoamericanas e industrias culturales.

Trabajamos con tanto con Asociación de Hispanistas de Japón, como con la Asociación de Hispanistas CANELA, colaborando con ellos en un ciclo específico de conferencias bajo el título “Encuentros con Hispanistas”, así como en sus congresos anuales. Pero quizás de lo que más orgulloso me sienta ha sido de la celebración de los dos congresos sobre el Español y la Cultura Hispánica que, en colaboración con el Observatorio de la Lengua Española de Japón y las Embajadas Latinoamericanas, celebramos en nuestro centro en octubre de 2013 y en octubre de 2015, cuyas actas han sido publicadas por el CVC del Instituto Cervantes (Centro Virtual Cervantes) y en los que participaron no sólo los más ilustres hispanistas japoneses, sino también académicos de la lengua de España y Latinoamérica, destacando la presencia de los directores de las academias de la lengua de Ecuador, España, México, Uruguay y Paraguay, entre otros.

私はまず食べ物の名前を示す漢字やひらがな、カタカナなどの文字が理解できないという不都合に遭遇した。これも時間の経過とともに慣れ、今では当初のような不便さはないが、さすがに漢字の読解には今でも非常に苦労している。特に、初めの3ヶ月はすべて象形文字にしか見えなかったものだ。一方で、私は東京の心臓部に位置し、この首都を一望できる素晴らしい眺めの巨大なプルデンシャルタワーの33階に住み、夜には宇宙船にでも乗っているかのような気分を味わい、その絶景を楽しみ、リラックスできたものだ。はじめからすべてが素晴らしかった。

不可能なことなどなく、文化が非常に重要な役割を持ち、あらゆる点で賑わっているこの国での滞在当初、数ヶ月間は、仕事と文化、学術的なプロジェクトに追われ、猛スピードで過ぎていった。おかげで、母国からこんなにも遠くにいることすら忘れるほどだった。それにしても当時の私は出会う人すべてにお辞儀をしまくっていたものだ。自分でもコミカルに感じることすらあったこの経験を今でも愛おしく、ユーモアのある思い出として記憶しているが、時が経つとともにそれすらも私にとって普通のことになっていったのだ。

仕事に関して、まずはスペイン語教育という点において、日本人がスペイン語を学ぶ動機は私が今まで勤務してきた国々の人々とは明らかに違うということに即座に気づいた。日本はスペイン語を公用語とするどの国からも非常に遠くに位置しているため、日本人にとって、スペイン語の習得はより良い仕事を取得するための要件ではないのだ。ここでのスペイン語学習者の動機は、ある国の歴史が好きだからというものであったり、スペイン語圏の舞踊や音楽が好きだからであったり、特定のサッカーチームやラテンアメリカの食べ物に興味があるからといった風に、ひたすら社会文化的なものであった。さらに、東京で通学に要する距離と時間を加えて考察すると、日本人は、週1回1レッスン1時間半という形態を好むことがわかった。そのため、私が慣れていた中東地域での週3回1レッスン3時間というコースに比べ、学習のスピードは遅くなるという結論に至ったのだ。

文化面では、私のチームの活動機軸はイスパニスモ（スペイン語圏研究）、ラテンアメリカ大使館、文化産業の3軸に絞った。

セルバンテス文化センター東京は、日本イスパニヤ学会とCANELA（日本・スペイン・ラテンアメリカ学会）と協力して学術的活動をしており、「イスパニスタとの出会い」と題して毎年学術会議を開いている。その中で私が最も誇りに思っているのは、日本におけるスペイン語観測所およびラテンアメリカ各国大使館にご協力いただいて、2013年と2015年の10月に2回当文化センターにて開催した日本スペイン語・スペイン語圏文化国際会議である。その参加者は、日本の著名なスペイン語研究者の先生方だけではなく、スペインやラテンアメリカの言語学者も揃った。そこではエクアドル、スペイン、メキシコ、ウルグアイやパラグアイの言語アカデミーの協力体勢がその他の国々の中でも傑出しており、議事録はセルバンテス文化センター東京のCVC(セルバンテスバーチャルセンター)に掲載された。

2015.10.03 II Congreso Internacional sobre el español y la cultura hispánica en Japón
第2回日本スペイン語・スペイン語圏文化国際会議

Las embajadas latinoamericanas han encontrado siempre en el Instituto Cervantes de Tokio su propia casa hasta el punto de que casi un 40% de nuestra programación cultural ha sido realizada por estas embajadas, con actividades de una gran altura: conferencias, proyecciones, festivales, exposiciones, conciertos, etc. Además fue importantísima su contribución no solo en el Congreso sobre el español y la cultura hispánica, sino también en el Congreso de Historia sobre la Embajada Keicho que contó con historiadores de España, Cuba, México y también de Filipinas, y que fue, junto al primer congreso sobre el español y la cultura hispánica, una de las muchas actividades que organizamos con motivo del Año Dual España Japón. Como no mencionar también el Festival de Cine y Música Duende, que en las tres ediciones que se han celebrado durante mi etapa como Director en Tokio, han llenado de buen cine y mejor música nuestro auditorio.

ラテンアメリカの大使館にとってセルバンテス文化センター東京はいつも我が家のような場所になっていた。そしてここでの文化イベントのほぼ40％がこれらの大使館の主催で行われてきており、講演会、放映会、フェスティバル、展示会、コンサートなどすべてレベルの高いものだった。また、日本スペイン語・スペイン語圏文化国際会議だけではなく、スペイン史学会シンポジウム『慶長遣欧使節団来西400年の歴史』においてもラテンアメリカの大使館の貢献は重要な位置を占め、スペイン、キューバ、メキシコやフィリピンの歴史学者が出席した。これは第1回日本スペイン語・スペイン語圏文化国際会議とともに日西デュアル・イヤーのために企画したものである。さらに私が東京で館長を勤めている間に3回開催されたドゥエンデ・映画・音楽フェスティバルでは、最高の映画と音楽で当文化センターのオーディトリウムを沸かせたことも言及せずにはいられない。

Con las industrias culturales hemos trabajado para la difusión de la cultura en español, así hemos logrado que editoriales japonesas traduzcan obras de los escritores españoles Eduardo Mendoza, Manel Loureiro, Kirmen Uribe, entre otros, tras su paso por nuestro centro; que las distribuidoras de cine pre-estrenen las películas en español en el Instituto Cervantes antes de su estreno en salas comerciales; que los departamentos de ciencia de las universidades japonesas, entren en contacto con especialistas españoles en astrología, física, arquitectura, medicina, etc; que las grandes salas de conciertos, como Bunkamura o Blue Note, hayan colaborado con nosotros y hayan presentado en el Instituto Cervantes al Director del Ballet Nacional de España, Antonio Najarro, o al gaitero Carlos Núñez; o que hayamos colaborado con importantes museos japoneses para llevar a cabo exposiciones en sus dependencias.

文化産業面においては、スペイン文化の普及に努め、日本の出版社が当文化センターへの訪問を経て、スペイン人作家であるエドゥアルド・メンドサやキルメン・ウリベなどの作品を日本語に翻訳し、出版するところにまでこぎつけた。また、映画のディストリビューターはスペイン映画の日本での劇場公開前に、1度セルバンテス文化センター東京で上映会を行うなどした。日本の大学の科学部門においては、天文学、物理学、建築学、医学などの分野で、スペインの研究者との出会いを実現してきた。さらに、BunkamuraやBlue Noteといった大規模なコンサートホールもセルバンテス文化センター東京と協力し、スペイン国立バレエ団の団長やアントニオ・ナハロ、カルロス・ヌニェスといったアーティストのプレゼンテーションをセルバンテス文化センター東京で実現した。ほかにも日本の主要な美術館と協力し、その館内で展示会を開くなどもしてきた。

Una de las cosas de las que más orgulloso me encuentro ha sido que gracias a los congresos anuales de arquitectura que hemos organizado en el Instituto Cervantes de Tokio con el patrocinio de la empresa española de Cataluña, Contratas y Obras, pusiéramos en contacto a la empresa constructora japonesa Nikken Sekei con el despacho de arquitectos de Barcelona de Joan Pascual – Ramon Ausió Arquitectes, y que las sinergias creadas por el Instituto Cervantes de Tokio, dieran como resultado que estas dos grandes empresas se asociaran, presentando conjuntamente un proyecto en el concurso para la renovación del Campo del Futbol del Barcelona, Camp Nou, y lo ganasen.

私がもう1つ誇りに思うことは、日本の建築設計事務所である日建設計とジョアン・パスクアル＆ラモン・アウシオ設計というバルセロナの建築設計事務所を双方に紹介することができたことである。さらにこの2つの設計事務所は提携し、バルセロナのサッカースタジオであるカム・ノウのリニューアルプロジェクトに共同で参加し、優勝を収めた。これはスペイン・カタルーニャの建築会社「Contratas y Obras」の協賛で、セルバンテス文化センター東京が毎年開催している年次建築会議が産出した相乗効果といえる。

◀2013.10.13
Congreso de historia: IV Centenario de la Embajada Keicho
スペイン史学会シンポジウム『慶長遣欧使節団来西400年の歴史』会議

▲2013.04.04 Encuentro con Eduardo Mendoza
エドゥアルド・メンドサとの出会い

▼2015.2.11 Congreso Arquitectura Social
ソーシャル・アーキテクチャ：住居と都市空間

2015.04.02-04.03 III Cumbre Flamenca de Japón
第3回クンブレ・フラメンカ・デ・ハポン

2016.04.19 Microcharlas sobre el macrocosmos
大宇宙を語る

También quiero mencionar a amigos desaparecidos como el gran artista y excelente cantaor flamenco Chiaki Horikoshi, que fue el impulsor de la Cumbre Flamenca de Japón, que en sus cuatro ediciones ha traído al Instituto Cervantes de Tokio a los más grandes artistas flamencos de este país, demostrando que ya casi están al nivel de los españoles, y que en la última de ellas celebrada entre los pasados el 6 y 8 de abril, se decidió ponerle como nombre "Cumbre Flamenca Chiaki Horikoshi" que continuará celebrándose de una forma bienal.

Por último Japón ha hecho que renaciera de nuevo en mí mi pasión por el flamenco y la poesía y durante tres años el gran bailarín español Antonio Alonso me preparó una coreografía con sus bailaoras que interpreté durante los actos del Día E. También como poeta he compuesto y recitado poemas en las distintas cumbres flamencas para los artistas: Paco de Lucía, Yoko Komatsubra, Shoji Kojima, Chiaki Horikoshi y Antonio Alonso, además de haber recitado en el Teatro Metropolitano de Tokio a Federico García Lorca en el 45 aniversario de la creación del Ballet de Yoko Komatsubara, acompañado por música de Manuel de Falla, un bailarín del Ballet Nacional de España y una bailaora japonesa. Nunca pensé que tendría tanto valor para actuar en público, pero Japón me dio la fuerza necesaria.

Los cinco años han pasado a una gran velocidad y creo que he trabajado aquí duramente pero con una gran comodidad, con un equipo excepcional tanto a nivel técnico como a nivel humano y que siempre ha tratado de facilitarme mi trabajo, con un gran apoyo institucional de las autoridades civiles y académicas de este gran país, y sobre todo con un gran respeto hacia España y hacia todos los países de lengua española. Nunca podré olvidar los cinco años en los que he vivido en el País del Sol Naciente, ni a sus gentes, ni a sus instituciones, ni a su forma de entender la vida y la naturaleza, en los que he descubierto una nueva filosofía de la vida. Mi cariño hacia Japón es verdaderamente inmenso y así permanecerá siempre.

Hasta siempre amigos y gracias a todos por vuestra generosidad y apoyo. Y sobre todo, a *ACUEDUCTO*, siendo una revista seria, rigurosa y que recoge lo mejor del hispanismo en Japón.

Antonio Gil de Carrasco.

ここで私は偉大な芸術家であり、最高のフラメンコカンタオールであり、私の大切な友人であった堀越千秋氏についても言及したい。彼こそ、4回にわたってセルバンテス文化センター東京で執り行われてきたクンブレ・フラメンカ・デ・ハポンに日本の著名なフラメンコアーティストたちをもたらしてくれた人物であり、日本のフラメンコがスペインのフラメンコにも劣らないレベルに達していることを証明した。去る4月6日から8日に開催されたクンブレ・フラメンカ・デ・ハポンではそのタイトルを「クンブレ・フラメンカ・デ・ハポン堀越千秋」と定め、今後はその名前を引き継ぎ、隔年ごとに開催を継続する予定となっている。

最後に、日本は私の中に眠っていたフラメンコと詩への情熱を甦らせてくれた。そしてこの3年間、スペインのダンスの巨匠であるアントニオ・アロンソ氏が彼のバイラオーラとともに私のために振り付けを考案し続けてくださった。そして、この私がスペイン語の日のイベントの舞台で踊ったのだ。また、私は詩人としてクンブレ・フラメンカ・デ・ハポンのたびに、パコ・デ・ルシア氏、小松原庸子氏、小島章司氏、堀越千秋氏、アントニオ・アロンソ氏といったアーティストの方々、それぞれに捧げる詩を書き、朗誦した。さらに小松原庸子舞踊団の創設45周年では、東京芸術劇場でフェデリコ・ガルシア・ロルカをマヌエル・ファリャの音楽を合わせて公演し、スペイン国立バレエ団とこの日本人バイラオーラが競演した。それまで私に人前で踊る勇気があるとは思いもよらなかったが、日本が私にその勇気を授けてくれた。

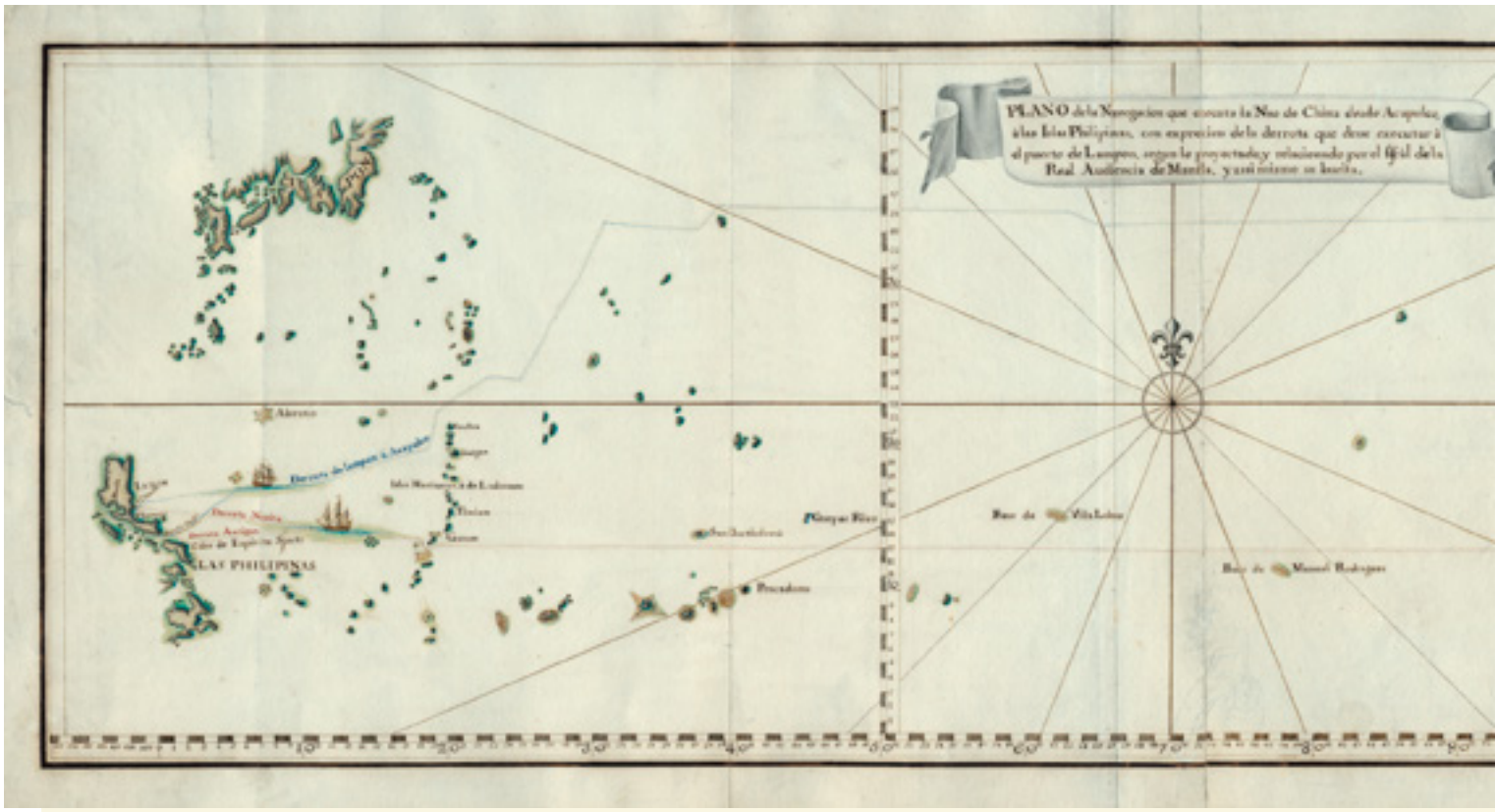
この5年間はものすごいスピードで過ぎてしまった。私はここで仕事に対し、非常な精を出してきたが、常に技術面、品格ともに例外的にレベルの高いチームに恵まれ、支えられながら取り組んできた。またこの偉大な国においては、学術機関も公共機関もすべての機関がスペインとスペイン語圏の国々に対する大変な敬意を祓い、協力・支援いただいてきた。私はこの日出づる国に住んだ5年間、ここで出会った人々、様々な関係諸機関、その人生観や自然観、私がここで出会った新たな人生哲学を一生忘れない。私の日本に対する愛情は計り知れないものであり、私はこの愛情を永遠に抱き続けることになるだろう。

皆様の寛容さとご援助に、また日本におけるスペイン語およびスペイン系文化研究の最高のものだけを集約した、正確で信憑性の高い雑誌「acueducto」に、心から感謝して、みなさん、さようなら。

アントニオ・ヒル・デ＝カラスコ

翻訳：橋本安代

Antonio Gil de Carrasco　アントニオ・ヒル・デ＝カラスコ
Nació en Granada en 1954. Escritor y periodista. Doctor en Letras, Licenciado en Filosofía y Letras, Diplomado en Educación General Básica. Actual Director del Instituto Cervantes de Tokio.
1954年グラナダ生まれ。作家、ジャーナリスト。文学博士。哲文学部卒業。教職課程履修。セルバンテス文化センター 東京(日本)現館長。



マニラ・ガレオン。3大陸を結んだスペイン航路

El Galeón de Manila. La ruta española que unió tres continentes

アメリカ大陸の発見はスペインの王国にとって重要な成功ではあったが、これがアメリカと中国への航路を発見したいという着想に固執することとなった。そしてフェルナンド2世「カトリック王」の外交政策を導いた最も重要な理由にもなる。1513年バスコ・ヌーニェス・デ・バルボア率いる約1000人の陸上探検隊が、初めてパナマ地峡を横断し、我々が太平洋として知る南の海に到達した。そしてイサベル1世とフェルナンド2世の孫のカルロス1世が王位についた後、フェルディナンド・マゼランにスパイスの供給を確保する為の渡航ルートを探す新しい探検を命じた。そしてその航海は西回り航路でアジアの港に到達することに拘った。
1519年8月、ポルトガル人航海者はセビリアから出港しアメリカに向かって大西洋を西に向かった。ブラジルに沿って進み、南アメリカ大陸の南端「マゼラン海峡」に到達し、穏やかな南の海に通じた。そしてこの時からこの南の海は太平洋として知られている。更にマゼランは西に航海を続け、現地の住民との戦いにより命を落とす事となったフィリピン諸島を発見した。その後、航海士の中でも最も熟達したファン・セバスティアン・エルカーノが指揮をとり、使命を遂行した。困難な航海の後、1522年9月、出発時265人だった乗組員のうち18人が無事サンルーカル・デ・バラメダ(カディス)に戻った。

この探検隊の後を継ぎ、ガルシア・フォフレ・デ・ロアイサが1525年、アルバロ・デ・サアベドラが1542年、ミゲル・ロペス・デ・レガスピが水先案内人であり宇宙形状誌学者のアンドレス・デ・ウルダネタと共に1564年、そしてこれがトルナビアへ(帰航路)を開拓した。この年の11月ヌエバ・エスパーニャ(メキシコ)のプエルト・デ・ナビダッドを出港し、1565年2月にフィリピンに到着する。そしてその年の6月、フィリピンから水先案内人のウルダネタと共にサン・ペドロ号は出港する。船は北東に針路をとり、黒潮に出会って、それに乗って北緯39度30分まで北上する。その後常に西に向い、カリフォルニアの沿岸を望見した。そして南に航海を続け、1565年10月1日アカプルコの港に到着した。

そうして1565年、マニラ・アカプルコ間を通る「マニラ・ガレオン」又は「ナオ・デ・チーナ」「アカプルコ・ガレオン」のアジア・アメリカ・ヨーロッパを結ぶ航路が拓かれ、1815年まで運営された。
マニラ湾のカビテを出発する行程は6月に始まり、品物を積み込んでしまうと、フィリピン諸島の内側を通って航海を始めた。北緯38度で30～40日程航海すると、アメリカの海岸に近付いたというサインを藻類が知らせてくれた。このようにして渡航は130～200日程かかり、アカプルコ湾に投錨し、商品を桟橋に降ろした。スペインまで運ぶ荷は、大西洋岸のベラクルスまで陸路で運び、そこの港からもう一度船でセビリア、その後の時代にはカディスまで運ばれた。
マニラではアカプルコに運ぶフィリピンの周囲の国から集めた商品を積み込んでいた。例えば、スパイス・絹・象牙・磁器・漆器・アモイ(現シアメン)や日本の真珠貝・絨毯・タペストリー・インドや東南アジアの綿の衣類である。アカプルコの港からは、マニラ・ガレオンで宣教師や皇族、商人や軍人が旅をしていた。その他では、銀や動物(牛・馬)、植物(トウモロコシ・カカオ・たばこ・サトウキビ・トマト・かぼちゃ・ピーマン等)である。

アカプルコからマニラの帰航路は、船は3月か4月に出港した。北緯10度に並行に東から吹く貿易風を探し、グアム島まで西に向かって航海を続けた。そして更に西に進み、サマール島に寄港し、投錨した。その後サン・ベルナディーノ海峡に到達し、ここから6月又は7月にマニラ湾に到着した。航程は8000マイル以上、100日～140日であった。

ガレオンの到着は、商業的にも社会的にも大きな出来事であった。商品は品評会や市場で展示や販売され、経済の回復の重要な要因となった。またマニラ・ガレオンは、結んでいた国々の建築・芸術・宗教・習慣・ガストロノミーに影響を及ぼしながら、精神的・社会的・経済的・文化的な影響も大きかった。

最終段階(1785-1815)。王立フィリピン会社の設立からガリオンの終了

1785年王立フィリピン会社を設立した。このカルロス3世の決定は2つの新しいルートを開始することに繋がる。エル・カリャオ港とモンテビデオ港を視認しながら、喜望峰を通る航路と、もうひとつはケープ・ホーンを通る航路。この2つの新しい航路は、一時期伝統的なマニラ・アカプルコ間と共に利用されていた。とは言え19世紀初めのイギリスとの戦争、トラファルガル海戦の敗北、フランスのイベリア半島侵攻によって、アジアの商品の需要は変わり、その上、メキシコの独立派の勢力が領地を獲得していった。武力紛争が商品の荷降ろしを阻み、航路の維持に尚更害を与えた。1813年カディス・コルテスで、この航路が廃止することが発令された。これは、フィリピンの居住者は自分の船で他のアジアの国と、完全に自由に取引を始められるという事である。1815年にマニラ港に「サン・フェルナンド」又は「マゼラン」が到着したが、メキシコで商品が徴収された為積荷はなかった。これがマニラ・ガレオンの最後の航海であった。1816年総督がスペインから伝えられた最終的な廃止の命令を伝えた。

www.fundacionmuseonaval.com

日西商業会議所

Cámara de Comercio Hispano Japonesa

マドリードにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、日西商業会議所発行『スペイン広報』と記事の一部をご紹介いたします。

スペイン情報誌
季刊『スペイン広報』

1985年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5

CCHJ
お問い合わせ先
日西商業会議所

Cámara de Comercio Hispano Japonesa
www.camarajaponesa.es
camara@camarajaponesa.es ☏ (+34) 91 851 12 11
✉ Apartado 10124 – 28080 MADRID - SPAIN

駐日代表
ペドロ J. ガジェゴ
携帯 090-4226-5774
E-mail: eliken@purple.plala.or.jp

スペイン内戦が生んだ「ロバート・キャパ」 第15話

文・川成 洋

キャパはパリに着き、旅装を解く暇も惜しんで、直ちにカタルーニャへと向かう。

キャパが中国に滞在している間に、スペイン共和国、スペインの戦場にも重大な動きがあった。

具体的には、1938年4月30日、フアン・ネグリン首相は、いわゆる「ネグリン13箇条」を発表する。外国侵入兵力の排除、権威ある政府を保持する民主主義共和国政府の樹立、国内政治の手段としての戦争放棄、スペイン再建に協力するすべてのスペイン人への恩赦、などの13箇条であった。これは、フランコに「報復なき講和」を呼びかけるとともに、これによって共和国側の政治的業績を内外にアッピールするためでもあった。果せるかなというべきか、13箇条は、フランコ側から全く無視され、国際的外交関係もいささかも変化しなかった。戦線が静かになり、両陣営は密かに陣営の立て直しを画策していた。

バルセロナの共和国戦争評議会は、海岸から100キロくらい内陸の、エブロ河の屈曲部を渡河地点として選び、エブロ河の数カ所を、強硬渡河することに決めた。その戦略目的は、第一にフランコ叛乱軍の通信連絡を混乱させ、さらにカタルーニャと共和国の他の地域との間の陸上輸送を回復することであった。7月早々、エブロ河の屈曲部の北側に、約10万の兵力、100機余りの軍用機、70ないし80門の野砲、27門の高射砲が集結させられた。鉄舟橋と小型舟艇による渡河作戦の訓練は抜かりなく完了していた。7月25日午前0時15分、渡河作戦が発動された。共和国軍はまたしても奇襲作戦に成功する。3カ所からの攻撃は共和国軍につかの間の戦勝気分を与えたが、日中の生き詰まるような灼熱が、敵も味方も消耗させ、進撃と後退のテンポを遅らせた。それでも1週間のうちに、約5万の兵力が渡河し、エブロ河の南部の丘陵地帯をほぼ占領してしまい、4千人の叛乱軍を捕虜にした。これに対して、フランコ陣営は、いつものように迅速な対応を施し、援軍を急派した。8月2日までに、共和国軍のほぼすべての前進は制止されてしまった。やがて共和国軍の制空権は完全に失い、攻守ところを変える。これは9月になってはっきりとした。攻撃側が守備に回ると意外にもろい。共和国軍は徐々に陣地を明け渡し、執拗に抵抗しながらも後退したのだった。

こうした戦闘の真っ只中で、ヒトラーをめぐって大きな動きが発生する。これは場合によっては、ネグリン内閣に吉報をもたらすことになるかもしれない。それゆえ、共和国首脳陣はこの動きを固唾を呑んで見守っていたのだった。

9月29日、ドイツのミュンヒェンにて、ズデーテン地方でのドイツ人の民族自治運動の収拾に関する英仏独伊の4カ国の巨頭会議が開かれ、ヒトラーのズデーテン地方の合併を承認した。この会議の前に、イギリスの首相チェンバレンが2回もドイツに行きヒトラーをなだめるために会見したがそれでも成功しなかった。結局、チェンバレンの宥和政策がミュンヒェン会議として結実したのだった。つまりナチスの要求を認められる限り認めて満足させ、ヨーロッパの平和を維持しようとしたのであるが、小国の犠牲を強いることになった。チェンバレンはロンドンに帰国し、「これがわれわれの時代の平和だと信ずる」と宣言し、「救国の英雄」として大歓迎される。

しかしながら、この会議には、当のチェコスロバキアも、その同盟国ソ連も招かれず、英仏の対独追従に終始し、チェコスロバキア解体への道を開いたのだった。

スペイン共和国のフアン・ネグリン内閣は、イギリスとフランス両国が対独強硬路線に固執し、ドイツに対して対外侵略政策の抑制、あるいは場合によっては対独宣戦布告へとつながるものと期待したのであり、またドイツの拡張政策を危惧していたソ連政府も同様であった。スターリンは、イギリスとフランスの民主主義を標榜する両政府は全くあてにならず、対独軍事同盟を締結する可能性なしと判断した。これが、国際旅団の解散へとつながったのだ。ネグリン首相は、国際旅団を解散させることによって、先の「ネグリン13箇条」の中の「外国侵入兵力の排除」を自ら実践し、ついでにフランコ叛乱軍を支援しているドイツとイタリアの正規軍の速やかな撤退を迫ると考えた。また、スターリンも、自国の防衛のためにヒトラーと手を結ぶこともあり得る状況となり、そのためには、反ファシズムの旗を掲げてナチス・ドイツと敵対する国際旅団は解散させなければならなかった。さらにソ連は、スペイン共和国支援の中止を宣言する。国際政治とは、なんと冷酷・非情なものか。

10月17日、国際旅団の総司令部のあるアルバセーテで国際旅団創設2周年記念式典が行われた。全国際旅団の送別会も兼ねていた。国際旅団の全将兵によるパレードが繰り広げられ、総司令官アンドレ・マルティら数人の指導者が共和国政府から表彰された。近郊の村や町から数千人もの住民がこの式典を見に来ていた。

10月29日、バルセロナの中心部の有名なディアゴナル大通りで、共和国政府主催による国際旅団の解散パレードが挙行された。解散する国際旅団のパレードの先陣を務めたのは、1936年11月マドリードに初陣した第11国際旅団ドイツ人大隊であった。この後に各大隊のパレードが続き、最後は、若きミルトン・ウルフが率いるアメリカ人大隊であった。アメリカ人義勇兵は、リンカン大隊、ワシントン大隊、カナダ・アメリカ人大隊の3個大隊を編成していたが、戦死者、戦傷者などが続出し、結局、1個大隊に編成替えすることになり、名称は最初の名称であるリンカン大隊を採用したのだった。彼らがアメリカに帰還した時、なぜか「リンカン旅団」と呼称していた。

パレードの開始は、午後4時30分だった。だがその開始の20分前まで伏せられていた。フランコ軍の爆撃機が空襲するのを恐れていたから、極秘事項だったのだ。パレードの開始時間が近づくと、拡声器付きのトラックが市内各所に赴き、開始を知らせた。共和国空軍が満を持して空を警戒していた。およそ25万人の民衆が道路に繰り出し、道の両サイドを埋め尽くした。両手に花束を抱えている女性もいた。また、パレードしてくる国際旅団の義勇兵に、頭から花を振りまいた。ビルの上階の窓から紙吹雪がまかれた。キャパは、もちろん、こうした感動的な情景を逃がさなかった。

〈次回に続く〉

フアン・ネグリン首相

川成洋　かわなりよう / Yo Kawanari
1942年札幌で生まれる。北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士課程修了。社会学博士（一橋大学）。法政大学名誉教授。スペイン現代史学会会長、武道家（合気道6段、杖道3段、居合道4段）。書評家。主要著書：『青春のスペイン戦争』（中公新書）、『スペイン―未完の現代史』（彩流社）、『スペイン―歴史の旅』（人間社）、『ジャック白井と国際旅団―スペイン内戦を戦った日本人』（中公文庫）他。

www.enforex.com

スペインとラテンアメリカにて

最先端を行くスペイン語学校

創立 1989年

Enforex

Enforex · Centro de Estudios Internacionales

認定校:

Instituto Cervantes
Centro Acreditado

12
スペインの
アカデミック
センター

10
スペイン、
メキシコ、
コスタリカでの
サマーキャンプ

20
ラテン
アメリカの
研修都市

32
スペインでの
大学、
ファウンデーション
プログラム

ヘッドオフィス
Alberto Aguilera, 26 | 28015 Madrid
Phone: +34 91 594 37 76
Fax: +34 91 594 51 59
E-mail: asia@enforex.es

ideal education group

アリカンテ | バルセロナ | カディス | グラナダ | マドリッド | マラガ | マルベージャ | パンプローナ | サラマンカ | セビージャ | テネリフェ | バレンシア（スペイン）
アルゼンチン | ボリビア | コロンビア | コスタリカ | チリ | キューバ | ドミニカ共和国 | エクアドル | ガテマラ | メキシコ | ペルー（ラテンアメリカ）

西宮市国際交流協会

スペイン語 おしゃべりの会

活動報告 2017.3.11

今回のテーマ　Perú, Comida y Cultura tradicional（ペルー、その伝統の食と文化）

今回の「スペイン語おしゃべりの会」は、3月11日、ペルー出身で西宮市に17年間在住のWilliam Álvarezさんに「Perú, Comida y Cultura tradicional」(ペルー、その伝統の食と文化)のテーマで話してもらった。この日は東日本大震災からちょうど6年目に当たるので、出席者全員が起立して1分間の黙祷を犠牲者に捧げた。ペルーも地震の多い国である。

講師はまず、ペルーは3つの地域に分かれているという話から始めた。①Costa(海岸地域)：首都Limaがある。ほとんどが砂漠である。②Sierra(山岳)：インカ帝国の首都Cuzcoがある。ジャガイモやキヌアの栽培、リャマ、アルパカの放牧が行われている。③Selva(熱帯雨林)：国土の約60％を占める。代表的な町はIquitosで、ここでは今も多くの先住民が水上生活をしている。こうした地域の特色を、映像を使って紹介してくれた。

次に文化遺産の話。インカ帝国の要塞で、空中都市(2,280mの高地にあり山裾からはその存在を伺うことができない)とも呼ばれている人気の高いMachu Picchu遺跡、インカの首都Cuzcoを守る巨石の壮大な要塞Sacsayhuaman遺跡、次いでInti Raymiと呼ばれる、インカ時代から続く伝統的な民族衣装で神に感謝を捧げる太陽の祭りの紹介にも、興味を持った出席者は多かったと思う。

そしてW. Álvarezさん得意のアンデスの食べ物の話。伝統的な食べ物であり、日本人の好みにも合う海産物をレモンで締めたCebiche、トウモロコシの粉に鶏肉などを加えトウモロコシの皮で包んで蒸したTamales、紫色のトウモロコシで作ったジュースChicha Moradaなどの紹介の後、アンデス原産で旧大陸に大きな恵みを与えたジャガイモに話題が進む。大きさ、色など様々で3,000種類もあるという。実物をいくつか持ってきて見せてくれた。伝統料理の種類は実に多いが、最近は日本やフランス料理のセンスを取り入れた料理がどんどん開発され、多くのグルメに注目されているとのこと。

今回は目と耳から味わっただけの料理の数々であったが、関西にも本場のペルー料理を提供するレストランが少なからずあるので、皆さんも実際、本場ペルー料理を楽しまれてはいかがだろうか？

文・写真提供　谷善三

▶次回開催について

次回の「スペイン語おしゃべりの会」への参加をご希望の方は、
下記までお問い合わせください。
お問い合わせ先：（公財）西宮市国際交流協会
場所：〒662-0911 西宮市池田町 11-1 フレンテ西宮 4 階
（公財）西宮市国際交流協会 会議室
電話：(0798)32-8680　FAX：(0798)32-8678　E-mail：niairuka@chive.ocn.ne.jp

マドリード在住17年
旬のスペイン情報をお届けします

スペイン小橋 ⑩

スペインの教育事情について　** その２ **

1 年生の教室風景

前回の投稿の続きで教育事情について取り上げます。筆者の娘が公立小学校に通っているので今回は公立の教育機関入学について詳しく話してみたいと思います。

学校は9月に新学期が開始。自治州によっても異なりますが、概ね入学する年の春、4月中旬～5月初旬の3週間ほどの期間に入学希望の申請をします。各自治州の定める申請書に個人データと入学希望学校名を、希望順に1～7校を記して提出します。入学許可の審査は点数制で、通学距離、兄弟の在校の有無、過去に両親や親戚、従兄弟などが通っていたか、両親の勤務先が近いか、兄弟が3人以上いる大家族か、障害の有無、保護者の収入額などが点数で計算され、総合点数の多い順番に入学許可が決められていきます。同点の生徒が多い場合は同点組みの中で抽選しているとか。もちろん第1希望入学が無理なケースもあり、その場合は第2、第3希望、と順番に割り振られていきます。仮の審査結果が一度6月中旬に発表され、その後、仮の結果に不満な保護者が異議を唱えるための数日間の期間を経て、6月下旬に正式に入学者リストが学校に張り出されます。学校ごとに受け入れられる生徒数が制限されているので、均等に生徒を割り振るためとはいえ、近くに住んでいるのに遠くの学校に入れられてしまうこともざら。希望が通らなかった場合、特に送り迎えをする保護者にとって何らかの不満を抱えながらの通学となってしまうのですから、家族全体の将来を決めるとても重要な審査に思えます。その後の入学手続きは7月前半までに行います。ここまではカレンダー通りに進んでよいのですが、筆者の娘の学校の場合、この時点で入学開始日は発表されず、入学月の9月になるまで分かりませんでした。この時点でもうすでに最初の「なんなんだ…」が頭によぎったものですが、さて、実際に学校生活が始まると…。続きは次回に。

1学年の登校カレンダー。グレーになっている日は休校日。
7～8月の2ヶ月間は夏休み

土屋寛子 つちやひろこ / Hiroko Tsuchiya
神戸出身。神戸市外国語大学イスパニア学科にてスペイン語を習得。専門は近・現代スペイン史。卒業後はスペインとダイレクトに関われる道として観光業に進む。1999年よりマドリード在住。日・西・葡の大手ランドオペレーターに勤務しながらブログ「スペインの扉」を運営。後、これまでの経験・知識を直接消費者に提供できるパイプラインの必要性を感じ、スペイン旅行専門のオンライン旅行会社 Vitalspain SL社 を起業。旅を通じて深くスペインを紹介し続ける傍ら、スペイン州政府観光局とのタイアップ、PR活動後援、翻訳、通訳業、コーディネーター業務に携わる。
ブログ www.spainnotobira.com
旅行会社 www.vitalspain.com

スペインファンをもっと増やそう！

スペインのお勧め
バール・レストラン
Bares y restaurantes recomendables

Vol.15

Sobrino de Botín
ソブリノ・デ・ボティン

（Madrid / マドリード）

“ボティンの2階で昼食をとる。ここは世界中で最高のレストランの1つだ。子豚の丸焼きを食べて、リオハ・アルタのワインを飲んだ。”

ヘミングウェイの小説『日はまた昇る』にこのような一節で登場するのが、今回紹介するマドリードの老舗レストラン、ソブリーノ・デ・ボティンだ。開業は1725年と極めて古く、ギネスブックに「世界最古のレストラン(*)」と認定されていることでも知られている。スペイン絵画の巨匠フランシスコ・デ・ゴヤも、マドリードへ上京した1765年頃に皿洗いとして働いていたという逸話も有名だ。創業以来、何世紀にも渡って、伝統的なカスティーリャ料理で世界の美食家達の舌を楽しませてきたボティンの代名詞ともなっているのが、コチニージョ(子豚の丸焼き)だ。草を食べる前の乳飲み子豚の柔らく臭みの少ないミルキーな肉質と、開業当初から現役の薪オーブンで職人たちが丁寧に焼いたパリパリの皮の香ばしさのコンビネーションを心ゆくまで堪能しよう。ヘミングウェイに倣ってリオハワインもお忘れなく。それ以外の一皿を挙げるのであれば、鶏のペピトリアだろう。玉ねぎ、卵黄、アーモンド、サフランなどを使ったクリーミーなソースで煮込んだ伝統的な鶏料理で、米と併せていただく。サフランやアーモンドの香りが効いていて、日本人の舌にも合う一皿だ。ちなみに、世界的に知られる人気店ゆえ、これから訪問される方は、事前の予約をお勧めする。

* 実際の「世界最古のレストラン」の称号については諸説あり。

1創業当時から現役の薪オーブン。タイル張りがスペインらしく華やかで美しい2子豚の丸焼きがずらりと並ぶ焼き場の風景は一見の価値あり3スープとデザート、パン、ドリンクがついたコチニージョのセットメニューは1人前44.35€4サフランと卵黄のあざやかな黄色が目を引くペピトリア5地下のダイニング。昔は貯蔵庫として利用されていた6古いイスラム支配時代の地下道を利用した地下のワインセラーも必見

中村 美和 なかむら みわ / Miwa Nakamura
情報工学修士、三菱電機にてモバイル端末開発に携わる。2007年より単身渡西し、マドリードにてCROSSMEDIA　WORKS,S.L.を起業。主に観光関連企業や観光局向けのウェブシステム開発、ソーシャルメディア・SEOなどのインターネット戦略コンサルを請負う傍ら、企業向けリサーチ、「地球の歩き方」などの観光ガイドブック、雑誌の取材、日本食・日本食材普及プロモーション「Taste of Japan」のスペインでのコーディネイトを担当。
マドリード情報サイトtodomadrid.infoや海外在住ジャーナリストらと共にSpeakupOverseas.netなどを運営中。 @n_miwa @spain_go

Información

Sobrino de Botín（ソブリノ・デ・ボティン）
住所：Calle Cuchilleros 17, 28005 Madrid
電話：+34 913 66 42 17 / +34 913 63 30 26
HP：http://www.botin.es
※上記情報は、2017年5月時点のもので変更する可能性があります。

本気のスペイン料理と酒、そして情熱のフラメンコダンス！

スペイン料理祭

2017年6月3日(土)、4日(日) 11時~18時

kokoka京都市国際交流会館 (京都・岡崎)

京都のスペイン料理店約20店が集結して、本場の味と熱気を再現。
スペインをまるごとギュッと凝縮した2日間で、旅するように食べ歩く!!

京都の実力派スペイン料理店が 自慢のスペイン料理を披露!

入場無料

スペイン全土の 郷土料理、約20種類を揃える屋台がズラリ!!
ワイン、シェリーなどスペイン産のお酒、約50種類が勢揃い
フラメンコなどのアツいパフォーマンスが無料で楽しめる♪

お得

事前予約だけのスペシャルチケット！
お申し込みはこちらから→

前売り限定飲み比べチケットで、
スペインドリンクお好きな5杯を飲み比べ!

主催：スペイン料理祭 実行委員会
共催：公益財団法人 京都市国際交流協会
お問い合わせ先：3@nzm.jp /
(株)のぞみ　スペイン料理祭運営事務局宛
公式サイト：http://taiken.onozomi.com/sf17/

Nozomi

スペイン語

DELE対策コース
Diploma de Español como Lengua Extranjera

時間その他お気軽にご相談ください。

京都 シルビア スペイン語教室

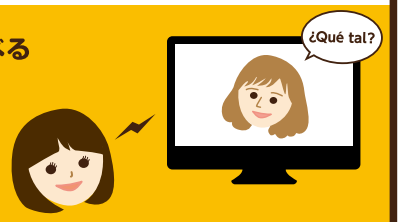
TEL　080-1415-8066
MAIL info@delenkioto.com

烏丸御池 NHK京都4軒南
ハイツエスメラルダ7F 706
(地下鉄烏丸御池駅6番出口すぐ)

オンライン・スペイン語レッスン《アオラ》

AHORA

いつでも好きな時に学べる
スカイプを使った
オンライン・スペイン語
スクールです。



マンツーマン指導！
時間が選べる！
登録料・入会金ゼロ！ ¥0 ¡Gratis!
お支払いは、チケット制！ Ticket 1 Ticket 2

http://ahora-esp.com

新刊

スペイン語、もっと先へ！

渡辺克義 / エフライン・ビジャモール・エレロ 共著
A5 変型判　173 頁　CD 付　定価 1,728 円

「読解力」,「表現力」をもっと身につけたい学習者に！

●会話中心の読みやすい文章●一歩上の文法解説
●大学の入試過去問題(和訳・作文)をたっぷり掲載
●付属の CD で聴き取り練習もできます！

〒162-0805 東京都新宿区矢来町 106　★価格は消費税 8% 込みです
Tel. (03)3267- 8531　Fax. (03)3267-8606　http://www.daisan-shobo.co.jp

第三書房

スペイン現地旅行会社
Vitalspain

新しいスペインとの出会い方。

スペイン各地のサイクリングツアー、こだわりの個人旅行、オーダーメイドの旅。

旅とスペインのプロが皆様のあらゆるご相談に日本語で応じております。

詳細はホームページで
www.vitalspain.com

Pastelería Dulce Mina

スペイン菓子工房
ドゥルセ・ミーナ
ーポルボロン、トゥロン手作りの店ー

茨城県守谷市ひがし野3-11-2
TEL 0297-45-2740
http://dulcemina.jp/

スペインタイルの絵付け教室
& 手作りタイル販売

スペインタイルアート工房
Tokyo/Osaka

大阪市西区南堀江 1-20-23-1003
Tel & Fax 06-4390-6545
Email: spaintile@japan.email.ne.jp
http://spaintile.art.coocan.jp/

確かな技術と音楽する心を育てる

吉川二郎ギター教室

初心者歓迎！

コンサートフラメンコギター
クラシックギター & ギタルパ

花屋敷教室(宝塚市)
天満橋教室(大阪市)
東京教室(月1回)
静岡教室(月1回)
ギターサークルJIRO(富士市)

お問合せ・入会のお申込みは
TEL&FAX.072-793-8684

詳しくはホームページで
吉川二郎　検索

Costa de Valencia
escuela de español

すべてのレベルに対応可能
(初級～教師研修まで)、
1クラス最大8人まで、宿泊施設完備、
毎週アクティビティ有り、
DELE対応授業有り、
サッカー観戦&プレー、お祭り、
綺麗な海、暖かい気候、日本人生徒歓迎。

www.costadevalencia.com
info@costadevalencia.com
Av. Blasco Ibáñez, 66
E-46021 Valencia

San Onofre

スペイン菓子
サン・オノフレ

〒851-2106
長崎県西彼杵郡時津町左底郷290-1
TEL: 095-860-8180　FAX: 095-860-8181

スペイン語
ADELANTE
Librería de español

スペイン語の本 & 雑貨
www.adelante-shop.jp

International House Valencia

ESPAÑOLÉ
MUCHO MÁS QUE ESPAÑOL

イメージできますか?
バレンシアで最高の留学

フレンドリーな雰囲気と中規模サイズの学校、
歴史的な町の中心に2つの近代的な校舎がある、
様々なニーズや年齢の方に合わせたスペイン語コース、
教師はネイティブスピーカーと大学の卒業生、
58カ国以上からの学生たち、
スペイン語コースで大学の単位を取得できるコースあり、
年間300日以上の晴天日、
芸術科学都市の現代建築、
どこまでも続くビーチ、
安全で良好な治安。

エスパニョレ・インターナショナルハウス・バレンシアは最高のスペイン語教育を行うフレンドリーな学校です。当校は**International House World Organization**のメンバーで、**Instituto Cervantes**の認可を得ています。

DELE試験合格率90パーセント以上

私たちの**DELEコース**は、セルバンテス文化センターが運営している国際的に知名度の高い検定試験DELEの準備をしたい学生のために特別に用意されています。

Instituto Cervantes
Centro Acreditado

セルバンテス文化センターは、言語教育の研究機関であり、スペイン語圏の言語および文化を世界に推進する政府機関です。

C/ Pizarro, 10 - 46004 Valencia, Spain
C/ de La Nave, 22 - 46003 Valencia, Spain

Tel.: +34 96 353 04 04 | www.espanole.es | info@ihvalencia.com

スペイン留学.jp

スペイン&中南米への留学サポート

留学相談、手続き代行無料サービス

- 学校への出願サポート
- 学生ビザ申請書記入のお手伝い
- 留学費用の海外送金
- ホームステイ、寮、又はシェアフラット、アパート等の申込み
- 空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行

安心して出発できるよう、全力でサポートいたします

1週間のプチ留学から長期プログラムまで、色々な目的に合わせて豊富にラインアップ。あなたにぴったりの留学スタイル選び、入学手続きまで無料でお手伝いいたします。言葉に自信がなく、学校とのやり取りが不安な方も大丈夫。入学申請書類の作成や必要な書類の送付、留学費用の海外送金などは全て代行いたします。

お問合せはこちらから
www.spainryugaku.jp
info@spainryugaku.jp

大阪本社 06-6346-5554　東京 03-6869-6435
名古屋 052-766-6406　福岡 092-517-9535

スペイン語
ADELANTE
www.adelante.jp

お問合せ
info@adelante.jp
TEL:06-6346-5554

大阪市北区梅田2-5-8千代田ビル西別館2F FAX:06-6110-5122

日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌
[アクエドゥクト] 発行元
Asociación Cultural Española
スペイン文化協会

スペイン語教室 ADELANTE

「私のスペイン語、通じた♪」を実感

無料体験レッスン随時実施中！
お気軽にお問合せ下さい。

- ●ネイティブ講師だからプチ留学気分で自然なスペイン語をマスター
- ●定員6名までの少人数制グループレッスン
- ●ヨーロッパ共通参照枠CEFのレベルに即したカリキュラム
- ●振替ができるので忙しくても安心
- ●楽しい交流パーティーや文化イベントでスペイン語仲間がいっぱい
- ●目的やペースに合わせて選べるコース
  (一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベート・スペイン語の本を読むコースetc.)

スペイン語の本&雑貨

オンラインショップ アデランテ
ADELANTE
www.adelanteshop.jp

学習テキスト、文法問題集、
レベル別副読本、D.E.L.E.試験対策本、
絵本など各種取り扱っています。

送料全国一律280円。
8,000円以上のお買い上げで
送料無料！